

ディプロマポリシー（DP）

正眼短期大学では、「行学一体」の建学の精神に基づき、教養科目および専門科目の授業の履修を通して「禅・人間力」（主体的自己の確立）の育成を目指し、所定の単位を修得したものに「短期大学士（禅・人間学）」を授与する。すなわち、学位授与方針と「禅・人間力」を育成するための科目は、以下のとおりである。

- ①広い社会的関心と教養を有し、宗教・仏教・禅・歴史・文化について説明でき、特に禅について深い専門的知識を習得している。
- ②宗教・仏教・禅・歴史・文化についての豊かな素養を踏まえつつ、対象を正確に理解し、表現することで、他者との相互理解に努め、組織の中で創造的に活動していくことができる。
- ③建学の精神（行学一体）を深く理解し、実践し続けるために豊かな人間性と高い倫理・道徳観を備え、協調性をもち社会に貢献できる能力を有している。
- ④主体的自己を確立することにより、さまざまな問題を分析し解決することができる能力を身につけている。

シラバス《目 次》

倫理と人間	100	仏教ボランティアⅡ a	137
人生と哲学	101	仏教ボランティアⅡ b	138
宗教と社会福祉	102	仏教学 a	139
日本の歴史と文化	103	仏教学 b	140
信仰と生活	104	禅学 a	141
仏教英語 a	105	禅学 b	142
仏教英語 b	106	仏教史 a	143
和の養生学 a	107	仏教史 b	144
和の養生学 b	108	禅宗史 a	145
漢文の基礎 a	109	禅宗史 b	146
漢文の基礎 b	110	日本文化 a	147
日本語Ⅰ a	111	日本文化 b	148
日本語Ⅰ b	112	宗教思想 a	149
日本語Ⅱ a	113	宗教思想 b	150
日本語Ⅱ b	114	仏教福祉 a	151
仏教学の基礎	115	仏教福祉 b	152
禅宗史概論	116	禅宗経典 a	153
禅学の基礎	117	禅宗経典 b	154
仏教史概論	118	禅宗法儀 a	155
禅と人間	119	禅宗法儀 b	156
提唱・禅語録Ⅰ a／Ⅱ a	120	日本事情 a	157
提唱・禅語録Ⅰ b／Ⅱ b	121	日本事情 b	158
禅の作法と心得 a	122	太極拳	159
禅の作法と心得 b	123	ヨガ	160
建学の精神フィールドワークⅠ／Ⅱ	124	茶道 a	161
卒業実践研究 a	125	茶道 b	162
卒業実践研究 b	126	筆禅道 a	163
布教学 a	127	筆禅道 b	164
布教学 b	128	陶芸 a	165
僧侶必携 a	129	陶芸 b	166
僧侶必携 b	130	精進料理法 a	167
坐禅Ⅰ a／Ⅱ a	131	精進料理法 b	168
坐禅Ⅰ b／Ⅱ b	132		
作務Ⅰ a／Ⅱ a	133		
作務Ⅰ b／Ⅱ b	134		
仏教ボランティアⅠ a	135		
仏教ボランティアⅠ b	136		

科目名		倫理と人間		担当教員名	宇佐美之規	
開講基準 年次	授業期間 春・秋学期	開講曜日 時限目	単位数	授業区分 講義・演習・実習	授業コマ数	必修・選択
1	秋	火曜日・1	2	講義	15	選択

サブタイトル	道徳的性情
--------	-------

【D P (ディプロマポリシー)】

①広い社会的関心と教養を有し、宗教・仏教・禅・歴史・文化について説明でき、特に禅について深い専門的知識を習得している。

【到達目標】

- ・倫理という言葉についてその意味を学習し、説明できる。
- ・倫理に関する社会的関心とその問題点について考察することができる。
- ・現代における倫理観の欠如の構造について考察することができる。

【授業概要】

日本において、礼儀や挨拶というようなマナーが年々希薄化している側面が伺える。そこで、ごく日常的な事柄など身近な問題を題材として、日本人の道徳観を踏まえつつ、倫理について学習し、さまざまな諸問題について、矛盾に向き合い、その解消について考える思考力を養う力を身につけます。

	授業計画・内容	学習成果（キーワード）
①	倫理とは1	ethics
②	倫理とは2	9 ethos
③	古代ギリシャ1	アリストテレス
④	古代ギリシャ2	ポリスの
⑤	古代ギリシャ3	ニコマコス
⑥	近代西洋における倫理1	カント
⑦	近代西洋における倫理2	Sapere aude!
⑧	日本における倫理1	道徳教育
⑨	日本における倫理2	型の必要性
⑩	現代社会の諸問題1	賛成と反対
⑪	現代社会の諸問題2	矛盾の解消
⑫	現代社会の危機1	家庭・学校・社会教育
⑬	現代社会の危機2	自己主張と自己否定
⑭	現代社会の危機3	和の損失
⑮	まとめ	
⑯	試験	

【授業外学修 予習・復習など】

学習成果（キーワード）について、予め調べて授業に出席して下さい。授業後には、授業の内容について簡単にまとめて下さい。

【単位の認定評価方法及び受講上の留意点】

定期試験70%・授業への取組み及び受講態度20%・レポート10%。また、授業の5分の1以上欠席すると、定期試験の受験資格がなくなりますので、注意して下さい。

【テキスト及び参考文献】

テキスト：『倫理学ノ考究』必要な資料は、担当者の方でコピーし配布します。
参考文献：文献等については、講義中に適時紹介します。

科目名		人生と哲学		担当教員名	宇佐美之規	
開講基準 年次	授業期間 春・秋学期	開講曜日 時限目	単位数	授業区分 講義・演習・実習	授業コマ数	必修・選択
1	春	金曜日・1	2	講義	15	選択

サブタイトル	人生哲学
--------	------

【DP(ディプロマポリシー)】

①広い社会的関心と教養を有し、宗教・仏教・禅・歴史・文化について説明でき、特に禅について深い専門的知識を習得している。

【到達目標】

- ・哲学についての理解を深めることが出来る。
- ・人生哲学について自分なりに考え哲学的理解を深めることが出来る。
- ・現代社会における諸問題について哲学的に考察することが出来る。

【授業概要】

哲学とは、自然及び社会、思考、知識の獲得に関する一般的法則を研究する科学であり、全体としての世界についての見解を示す世界観でもあり、根本的な原理について万物に共通する法則などを論理的に探究する。そこで、人生とは、各自の人生哲学とはどのように考えるのか、また、善や悪とは、賛成と反対とは、正義とは等々について深く考える力を学びます。

	授業計画・内容	学習成果(キーワード)
①	哲学のはじまり 1	万物の根源
②	哲学のはじまり 2	タレス、アナクシマンドロス等
③	課題 1	銃規制、賛成反対
④	古代ギリシャ哲学 1	ソクラテス
⑤	古代ギリシャ哲学 2	哲学者
⑥	古代ギリシャ哲学 3	プラトン
⑦	古代ギリシャ哲学 4	政治哲学
⑧	課題 2	野球道とベースボール哲学
⑨	近代哲学 1	ヘーゲル
⑩	近代哲学 2	弁証法
⑪	現代哲学 1	ヤスパース
⑫	現代哲学 2	実存
⑬	人生について 1	人生哲学
⑭	人生について 2	存在、矛盾
⑮	まとめ	
⑯	試験	

【授業外学修 予習・復習など】

学習成果(キーワード)について、予め調べて授業に出席して下さい。授業後には、授業の内容について簡単にまとめて下さい。

【単位の認定評価方法及び受講上の留意点】

定期試験70%・授業への取組み及び受講態度20%・レポート10%。また、授業の5分の1以上欠席すると、定期試験の受験資格がなくなりますので、注意して下さい。

【テキスト及び参考文献】

テキスト：『哲学ノ考究』必要な資料は、担当者の方でコピーし配布します。
参考文献：文献等については、講義中に適時紹介します。

科目名	宗教と社会福祉			担当教員名	今村敬子	
開講基準 年次	授業期間 春・秋学期	開講曜日 時限目	単位数	授業区分 講義・演習・実習	授業コマ数	必修・選択
1	秋	火曜日・2	2	講義	15	選択

サブタイトル 宗教と福祉の関連性は共に人々が幸福になること(福祉)である。

【D P (ディプロマポリシー)】

①広い社会的関心と教養を有し、宗教・仏教・禅・歴史・文化について説明でき、特に禅について深い専門的知識を習得している。

【到達目標】

- ・社会貢献の真の意義を理解して社会的活動ができる。
- ・相手の立場や意見を尊重する受容の心で人間の尊厳的福祉活動ができる。
- ・社会福祉が宗教の根源の一つである仏教の自利利他の精神をもって活動ができる。

【授業概要】

宗教としての仏教を学ぶことと社会福祉活動との関連性はどこにあるのか。歴史的に(いつの時代から福祉思想が生まれてきたのか)また、グローバルな視点(さまざまな世界の宗教)からその必然性を討議していきたい。洋の東西を問わず、世界の宗教が古代から現代にいたるまで福祉思想の原点を発信している箇所に焦点をあて、現代の社会福祉がここを忘れがちなHow toに陥る危険性にも視点をあてたい。

	授業計画・内容	学習成果(キーワード)
①	将来の日本及び日本人のありかた、生き方	中央教育審議会
②	社会福祉基礎構造改革と福祉価値	21世紀日本の構想
③	社会福祉改革の理念	地域総合支援、対等な関係、
④	日本の宗教福祉の源流Ⅰ(儒教福祉)	孔子、孟子、近世慈恵的救済、仁
⑤	日本の宗教福祉の源流Ⅱ(キリスト教福祉)	カリタス、隣人愛、イエス
⑥	日本の宗教福祉の源流Ⅲ(仏教福祉 古代①)	聖徳太子、十七条の憲法、四箇院
⑦	日本の宗教福祉の源流Ⅲ(仏教福祉 古代②)	行基、道昭、民間福祉、布施屋
⑧	日本の宗教福祉の源流Ⅲ(仏教福祉平安時代①)	最澄、学生式、空海、
⑨	日本の宗教福祉の源流Ⅲ(仏教福祉平安時代②)	空也、民間布教、慈善救済、原信
⑩	日本の宗教福祉の源流Ⅲ(仏教福祉鎌倉時代①)	法然、平等の慈悲、親鸞、他力
⑪	日本の宗教福祉の源流Ⅲ(仏教福祉鎌倉時代②)	道元、発菩提心、日蓮、法華経
⑫	日本の宗教福祉の源流Ⅲ(仏教福祉室町時代)	一遍、明恵、叡尊、忍性慈善救済
⑬	日本の宗教福祉の源流Ⅳ(仏教福祉江戸時代①)	黄檗宗、鉄眼、了翁、無能
⑭	日本の宗教福祉の源流Ⅳ(仏教福祉江戸時代②)	浄土宗捨世派、白隠、良寛、慈雲、
⑮	明治初期の公的救済思想	廃仏希釈、福田論
⑯	定期試験	

【授業外学修 予習・復習など】

本時の予習としてはシラバスにかかれた項目毎の資料に目をとおしておくこと。復習としては前時に履修したキーワードについての小テストを毎時行う。

【単位の認定評価方法及び受講上の留意点】

授業時にグループディスカッション等で自分の意見を発表できること。
毎回、課題プリントを提出すること。定期試験においては5分の4以上の出席があること

【テキスト及び参考文献】

テキスト：『宗教福祉論』長谷川匡俊著 医歯薬出版
参考文献：必要に応じコピーを配布する。

科目名		日本の歴史と文化		担当教員名		鈴木重喜	
開講基準 年次	授業期間 春・秋学期	開講曜日 時限目	単位数	授業区分 講義・演習・実習	授業コマ数	必修・選択	
1	秋	月曜日・3	2	講義	15	選択	

サブタイトル 過去から学び未来につなげる

【DP(ディプロマポリシー)】

①広い社会的関心と教養を有し、宗教・仏教・禅・歴史・文化について説明でき、特に禅について深い専門的知識を習得している。

【到達目標】

- ・日本の歴史や文化に関する用語の読み方を習得し、その意味を説明できる。
- ・古代国家の形成から近代までのそれぞれの時代の流れと特徴を説明できる。
- ・各時代で生み出された文化の意義と特徴を説明できる。

【授業概要】

本講義では、日本の歴史の中で特に文化史を中心概説します。この講義を通して日本人の過去の文化や先人の考え方等について学び、現代人として日本文化に一層の理解と関心を深めるとともに、次世代へ伝えようとする精神を身に付けます。

	授業計画・内容	学習成果(キーワード)
①	はじめにー日本文化の源流ー	先土器時代、縄文時代、弥生時代
②	古代国家の形成と日本神話	中国の史書、古墳時代、大和王権
③	仏教の受容とその発展	聖明王、聖徳太子、鑑真、道鏡
④	漢風文化から国風文化へ	平安遷都、漢詩、かな文字
⑤	平安時代の仏教	最澄、空海、天台本覚論
⑥	鎌倉仏教の成立	法然、親鸞、一遍、道元、日蓮
⑦	内乱期の文化	平家物語、太平記、神道
⑧	国民的宗教の成立	寺請制度、葬式仏教、両墓制
⑨	近世国家の成立と歴史思想	キリシタン禁制、儒学
⑩	元禄文化	義理と人情、赤穂事件
⑪	儒学の日本的展開	朱子学、古学、古文辞学、陽明学
⑫	国学と洋学	本居宣長、杉田玄白、緒方洪庵
⑬	明治維新における公論尊重の理念	尊皇攘夷、公武合体、明治憲法
⑭	近代日本における西洋化と伝統文化	文明開化、啓蒙思想、国家神道
⑮	まとめ	
⑯	筆記試験	

【授業外学修 予習・復習など】

今回の講義内容にあたるテキストの該当箇所および補助資料を読んだ上で、学習成果(キーワード)を事前に調べて授業に臨んでください。授業後はテキストや補助資料を確認し、講義の内容を文章化して簡潔にまとめてください。理解できない内容についての質問は、オフィスアワーの時間に受け付けますので、遠慮なく聞いてください。

【単位の認定評価方法及び受講上の留意点】

定期試験(筆記試験70%程度)と授業への取り組み(20%程度)、適宜授業中に書いて提出していただく小レポート(10%程度)により行います。

【テキスト及び参考文献】

テキスト：尾藤正英『日本文化の歴史』(岩波書店 税込み864円)

科目名	信仰と生活			担当教員名	今村敬子	
開講基準 年次	授業期間 春・秋学期	開講曜日 時限目	単位数	授業区分 講義・演習・実習	授業コマ数	必修・選択
1	春	火曜日・2	2	講義	15	選択

サブタイトル	生活様式の中における信仰の役割
--------	-----------------

【DP(ディプロマポリシー)】

①広い社会的関心と教養を有し、宗教・仏教・禅・歴史・文化について説明でき、特に禅について深い専門的知識を習得している。

【到達目標】

- ・信仰とは何かを把握することができる。
- ・日本をはじめ世界各国のさまざまな宗教を比較理解し、その意義を説明することができる。
- ・世界各国における諸問題の根底である価値観（信念、信仰、宗教）の違いに事例をもって説明できる。

【授業概要】

本講義では日本も含めた世界各国における文化（生活様式）や信仰の相違点を様々な事例研究をすることによって比較理解し、それぞれの社会における価値基準や考え方を幅広く学ぶ。また不安定な世界情勢に対しても、グローバルな視点をもって人間の尊厳理解と平和の在り方（問題解決力）を追求し、社会に広げていく力（社会貢献力）を養うようにする。

	授業計画・内容	学習成果（キーワード）
①	第1章 人類と文化－人間とは何か	人類の起源と進化 文化の概念
②	”	文化相対主義、グローバル化
③	第10章 民族・階級・結社	民族と国家、少数民族、身分
④	”	階級、エスニシティ、カースト
⑤	第3章 個人・家族・コミュニティ	個人と社会、家族
⑥	”	親族、コミュニティ、ボランティア
⑦	第4章 人生と儀礼	通過儀礼、境界理論、
⑧	”	儀礼の構造、コミュニティ、過渡
⑨	第5章 宗教と世界観	宗教、呪術、憑依シャーマン
⑩	”	儀礼の定義、現代の宗教と世界観
⑪	第6章 健康・病気・医療	健康と身体、病気と治療
⑫	”	医療の体系、環境と健康
⑬	第7章 人間と死	死の判定、医療と死、死体処理
⑭	”	死者儀礼、死と不浄性、祖先崇拝
⑮	まとめ	現代における死の問題
⑯	定期試験	

【授業外学修 予習・復習など】

課題プリントをディスカッションした後、各自で完成して提出すること。
 次回の課題プリントや資料（教科書）に目を通して予習しておく。

【単位の認定評価方法及び受講上の留意点】

定期試験70%、授業中の取り組み(発表)10%、授業後の課題プリント20%程度により評価する。

【テキスト及び参考文献】

テキスト：『文化人類学カレッジ版第3版』医学書院
 参考文献：必要な参考資料は随時コピーにて配布。

科目名		仏教英語 a		担当教員名	フォーマルス アタレ	
開講基準 年次	授業期間 春・秋学期	開講曜日 時限目	単位数	授業区分 講義・演習・実習	授業コマ数	必修・選択
1	春	月曜日・2	1	演習	15	選択

サブタイトル | コミュニケーション力

【DP(ディプロマポリシー)】

①広い社会的関心と教養を有し、宗教・仏教・禅・歴史・文化について説明でき、特に禅について深い専門的知識を習得している。

【到達目標】

- ・英文禅語の意味を英語で伝えることができる。
- ・コミュニケーション力として日本文化を英文で話し紹介できる。
- ・禅仏教思想を世界に伝えるときに必要な英文を読むことができる。

【授業概要】

ここ数年ますます世界は一元化し、各国の政治、経済、産業、芸術、学問、スポーツの動きは同次元での情報が共有化されてきている。本学の禅、人間学科としての基本理念である禅の考え方、ものの見方は東洋の思想として今日では西洋社会に広く紹介されている。本講では、禅の思想を凝縮した英文禅語の教材を用いて仏教思想をどのように世界にコミュニケーションしていったらいいのか、その基礎能力を習得し、世界に日本文化を紹介する社会貢献の一端ができるようにする。

	授業計画・内容	学習成果(キーワード)
①	Introduction	The Dhammapada (法句経)
②	The Buddha's world	The legacy (遺産)
③	Twin verses	思うこと
④	Vigilance	警戒
⑤	Mind	心
⑥	Flowers	花
⑦	The immature	未熟な人
⑧	The Wise	聡明な人
⑨	The Saint	聖人
⑩	Thousand	千
⑪	Evil	悪質
⑫	Punishment	罰
⑬	Age	年齢
⑭	Self	我
⑮	集め	
⑯	試験	

【授業外学修 予習・復習など】

学習成果(キーワード)について予め調べて授業に出席して下さい。授業後には、授業の内容について簡単にまとめて下さい。

【単位の認定評価方法及び受講上の留意点】

英文禅語を教材とした演習発表に備え、簡単な予習が義務づけられる。一コミュニケーション力として積極的な態度で英語を読むこと、書くこと、聞くこと、話すことを4領域に亘って評価される。毎回の小テストとして前回は既習した英単語から一書くこと、話すことの力を習得する。評価は定期試験(70%)と提出物(20%)、発表(10%)から決定する。3回以上の欠席は試験資格を失うから注意すること。

【テキスト及び参考文献】

テキスト: The Dhammapada (法句経)、Eknath Easwaran (Kindle)

科目名		仏教英語 b		担当教員名	フォーマルス アタレ	
開講基準 年次	授業期間 春・秋学期	開講曜日 時限目	単位数	授業区分 講義・演習・実習	授業コマ数	必修・選択
1	秋	月曜日・2	1	演習	15	選択

サブタイトル | コミュニケーション力

【DP(ディプロマポリシー)】

①広い社会的関心と教養を有し、宗教・仏教・禅・歴史・文化について説明でき、特に禅について深い専門的知識を習得している。

【到達目標】

- ・英文禅語の意味を英語で伝えることができる。
- ・コミュニケーション力として日本文化を英文で話し紹介できる。
- ・禅仏教思想を世界に伝えるときに必要な英文を読むことができる。

【授業概要】

ここ数年ますます世界は一元化し、各国の政治、経済、産業、芸術、学問、スポーツの動きは同次元での情報が共有化されてきている。本学の禅、人間学科としての基本理念である禅の考え方、ものの見方は東洋の思想として今日では西洋社会に広く紹介されている。本講では、禅の思想を凝縮した英文禅語の教材を用いて仏教思想をどのように世界にコミュニケートしていったらいいのか、その基礎能力を習得し、世界に日本文化を紹介する社会貢献の一端ができるようにする。

	授業計画・内容	学習成果(キーワード)
①	Introduction	The classics of Indian spirituality
②	The world	世界
③	The awakened one	目が覚めた人
④	Joy	喜び
⑤	Pleasure	楽しみ
⑥	Anger	怒り
⑦	Impurity	汚れ
⑧	Established in Dharma	法に定着した人
⑨	The path	道
⑩	Varied Verses	各句
⑪	The Downward course	下の方へ
⑫	The Elephant	象
⑬	Thirst	不満
⑭	The Bhikshu	比丘(僧侶)
⑮	集め	
⑯	試験	

【授業外学修 予習・復習など】

学習成果(キーワード)について予め調べて授業に出席して下さい。授業後には、授業の内容について簡単にまとめて下さい。

【単位の認定評価方法及び受講上の留意点】

英文禅語を教材とした演習発表に備え、簡単な予習が義務づけられる。一コミュニケーション力として積極的な態度で英語を読むこと、書くこと、聞くこと、話すことを4領域に亘って評価される。毎回の小テストとして前回は既習した英単語から一書くこと、話すことの力を習得する。評価は定期試験(70%)と提出物(20%)、発表展(10%)から決定する。3回以上の欠席は試験資格を失うから注意すること。

【テキスト及び参考文献】

テキスト: The Dhammapada (法句経)、Eknath Easwaran (Kindle)

科目名		和の養生学 a		担当教員名		野崎 康 弘	
開講基準 年次	授業期間 春・秋学期	開講曜日 時限目	単位数	授業区分 講義・演習・実習	授業コマ数	必修・選択	
1	春	火曜日・3	1	演習	15	選択	

サブタイトル 日本のご飯と時節の行事から和の素晴らしさを発見しましょう。

【DP(ディプロマポリシー)】

①広い社会的関心を有し、宗教・仏教・禅・歴史・文化について説明でき、特に禅について深い専門知識を習得している。

【到達目標】

- ①受け継がれている日本の食材や食事を東洋医学（陰陽五行論）で再認識する。
- ②時節の行事の意義を東洋医学（陰陽五行論）を通して学び、説明できるようにする。
- ③自分の健康は自分で守る。ツボをマスターする。ショウガ灸・味噌灸を作れるようにする。
- ④蓮の育て方（4月5日）、甘茶の作り方（7月19日）を学び、実践できるようにする。
- ⑤野外活動として関市洞戸の薬草苑「神薬才花苑」を見学会を行う（5月10日予定）。

【授業概要】

本講義では、食事（日本食）や時節の行事を説明し、また、長い間培われてきたツボを解説し、自分のみならず周りの人たちの役に立つような知識を身につけていただきます。

	授業計画・内容	学習成果（キーワード）
①	蓮	蓮の植え付け体験
②	陰陽五行論の概説	陰陽、五行論、気血
③	春の食べ物	たんぼぼ、よもぎ、竹の子
④	食事一品（レポートより）解説	和の食事は素晴らしい
⑤	自然の素晴らしさ（薬草苑「神薬才花苑」へ）	鑑真和上ゆかりの花・瓊花、薬草
⑥	食事一品（レポートより）解説	和の食事は素晴らしい
⑦	経絡とツボ	百会、大椎に灸
⑧	薬味	山椒、生姜、山葵
⑨	梅雨の食べ物	梅干し、ラッキョウ、大根
⑩	経絡とツボ	合谷、足三里に灸
⑪	一年の陰陽盛衰と養生法	夏至、冬至、時節の病気
⑫	経絡とツボ	腰眼、膝眼に灸
⑬	夏の食べ物	キュウリ、トマト、スイカ
⑭	試験日	
⑮	甘茶	甘茶作り体験
⑯	時節の行事	土用のうなぎ、三伏

【授業外学修 予習・復習など】

4月19日までに一番好きな和食料理のレシピ（材料、作り方）を提出してください。4月26日、5月17日に東洋医学的に分析して説明する。

【単位の認定評価方法及び受講上の留意点】

レポート提出2回50%、授業への取り組み30%、蓮・甘茶作り20%とします。
レポート内容：4月は「和食料理のレシピ」、7月は「春夏の和の養生法」

【テキスト及び参考文献】

テキスト：各講義ごとにプリントを作成配布します。

科目名		和の養生学b		担当教員名		野崎 康 弘	
開講基準 年次	授業期間 春・秋学期	開講曜日 時限目	単位数	授業区分 講義・演習・実習	授業コマ数	必修・選択	
1	秋	火曜日・3	1	演習	15	選択	

サブタイトル | 日本の食事と時節の行事から和の素晴らしさを発見しましょう。

【D P (ディプロマポリシー)】

①広い社会的関心を有し、宗教・仏教・禅・歴史・文化について説明でき、特に禅について深い専門知識を習得している。

【到達目標】

- ①受け継がれている日本の食材や食事を東洋医学（陰陽五行論）で再認識する。
- ②時節の行事の意義を東洋医学（陰陽五行論）を通して学び、説明できるようにする。
- ③自分の健康は自分で守る。ツボをマスターする。ショウガ灸・味噌灸を作れるようにする。
- ④味噌の作り方を学び、実践できるようにする（2月14日）。

【授業概要】

本講義では、食事（日本食）や時節の行事を説明し、また、長い間培われてきたツボを解説し、自分のみならず周りの人たちの役に立つような知識を身につけていただきます。

	授業計画・内容	学習成果（キーワード）
①	陰陽五行論の概説	陰陽、五行論、気血
②	秋の食べ物	白菜、ネギ、大根
③	時節の行事	中秋の名月、重陽の節句
④	食事一品（レポートより）解説	和の食事は素晴らしい
⑤	食事一品（レポートより）解説	和の食事は素晴らしい
⑥	経絡とツボ	百会、大椎に灸
⑦	医食同源（米）	米、もち米
⑧	医食同源（豆）	大豆、黒豆、小豆、緑豆
⑨	冬の食べ物	牛蒡、蓮根、里芋
⑩	薬味	芥子、唐辛子、スダチ
⑪	経絡とツボ	合谷、足三里に灸
⑫	医食同源（調味料）	味噌、しょうゆ、ミリン、塩
⑬	時節の行事	冬至、正月、七草粥
⑭	経絡とツボ	腰眼、膝眼に灸
⑮	試験日	
⑯	味噌	味噌作り

【授業外学修 予習・復習など】

10月4日までに好きな和食料理のレシピ（材料、作り方）を提出してください。10月18日、10月25日に東洋医学的に分析して説明します。

【単位の認定評価方法及び受講上の留意点】

レポート提出2回50%、授業への取り組み30%、蓮・甘茶作り20%とします。
レポート内容：9月は「和食料理のレシピ」、1月は「秋冬の和の養生法」

【テキスト及び参考文献】

テキスト：各講義ごとにプリントを作成配布します。

科目名	漢文の基礎 a			担当教員名	横山 三千穂	
開講基準 年次	授業期間 春・秋学期	開講曜日 時限目	単位数	授業区分 講義・演習・実習	授業コマ数	必修・選択
1	春	月曜日・2	1	講義	15	選択

サブタイトル 読んで読んで、書いて書いて実力をつけよう

【DP(ディプロマポリシー)】

①広い社会的関心と教養を有し、宗教・仏教・禅・歴史・文化について説明でき、特に禅について深い専門的知識を習得している。

【到達目標】

- ・漢文漢詩の訓読、作文が出来ること。(白文－訓読文－書き下し文)
- ・漢詩の流れをつかみ、中国・日本の作品を讀解、鑑賞すること。
- ・作詩の法則を理解し作品を提出(平仄法・押韻法・用字法など)

【授業概要】

漢詩が日本に伝来したのは、百済の王仁が論語・千字文を献上(A. D. 285)したのがはじめてである。以来長い歴史の中で、先人の工夫と努力によって漢文を日本語にあてはめて読む訓読法を会得した。五山文学の論評の中で永平道元は「学人は只管打坐して他を管ずることなかれ。仏祖の道はただ坐禅なり。捨つべき道理左右に及ばず」、また、万里集九は「詩は是れ吾家の般若経。詩熟すれば即ち禅必ず熟す」と。漢詩の耽溺による五山文学の興隆、それに対する憂慮と訓戒等々興味は尽きないが、「詩禅一論」に参加するにはまず一編の漢詩を作ること。

高校では漢文漢詩の訓読鑑賞を習得してきたが、本講座では「漢詩作法」を取り入れ、時には試作に耽溺し、時には先人の生き方に参加してみたい。

	授業計画・内容	学習成果(キーワード)
①	ガイダンス	漢詩いろいろ
②	中国古典文学の流れ	六朝文学、唐文学
③	漢文の構造と訓読	漢字、音読、訓読
④	〃	返の点、書き下し文
⑤	漢詩の鑑賞	読んで
⑥	〃	書いて
⑦	〃	感動して
⑧	〃	作ろう
⑨	漢詩の概要 種類	古詩と近体詩
⑩	〃 規則	五言と七言絶句
⑪	漢詩作法 平仄法	平起式と仄起式
⑫	〃 押韻法	脚韻と上下30韻
⑬	作詩・題「初夏緑陰」	緑陰茗話
⑭	提出・添削・評価	〃
⑮	筆記試験	
⑯	まとめ	

【授業外学修 予習・復習など】

山、川、郊外、寺など散策し、風景など見ながら、その感動の心を言語、漢語に表現し、そして詩にまとめよう。

【単位の認定評価方法及び受講上の留意点】

1. 積極的に授業に参加し、自身の基礎的な認識や理解を深め、身につけたかについて
2. 学習態度20% レポート・漢詩30% 定期試験50%
3. 以上の割合で90%以上は秀、80%以上は優、70%以上は良、60%以上は可

【テキスト及び参考文献】

参考文献：「漢詩創作講座」(日本漢詩教育会) 「五山文学集・江戸漢詩集」(日本古典文学大系 89 岩波書店)
 テキスト：「だれにもできる漢詩の作り方」(呂山 太刀掛重雄 呂山詩書刊行会) 2,000円
 ※受講時には漢和辞典を持参すること ※必要な資料は担当者の方でコピーして配布する。

科目名		漢文の基礎b		担当教員名		横山 三千穂	
開講基準 年次	授業期間 春・秋学期	開講曜日 時限目	単位数	授業区分 講義・演習・実習	授業コマ数	必修・選択	
1	秋	月曜日・2	1	講義	15	選択	

サブタイトル 読んで読んで、書いて書いて実力をつけよう

【DP(ディプロマポリシー)】

①広い社会的関心と教養を有し、宗教・仏教・禅・歴史・文化について説明でき、特に禅について深い専門的知識を習得している。

【到達目標】

- ・漢文漢詩の訓読、作文が出来ること。(白文－訓読文－書き下し文)
- ・漢詩の流れをつかみ、中国・日本の作品を讀解、鑑賞すること。
- ・作詩の法則を理解し作品を提出(平仄法・押韻法・用字法など)

【授業概要】

「詩志也」(詩文)「在心為志、發言為詩」(詩經)と書かれていた。心は知情意の本体で有り、形のない思うことを考えること感ずることである。この心を形のある漢詩漢語で漢詩の法則に従って表現すれば一首の詩を作ることができる。前期に学習した漢詩作法に従い、自分の感性を豊かにし、自分の詩を作ってみよう。もう一度事項を確認しておこう。

①平仄法・押韻法・平起式・仄起式 ②一三不論・二四不同・二六対・下三連は除くなど ③同字重出不可・孤平を忌む・踏み落し・挟み平等など
時には漢詩三昧になってほしい。時には「詩禅一味論」に参加してほしいと思います。

	授業計画・内容	学習成果(キーワード)
①	作詩・題「初秋吟」	新秋郊外
②	” 提出・添削・評価	”
③	” 「中秋賞月」	秋夜寄友
④	”	”
⑤	作詩・題「看菊」	重陽賞菊
⑥	”	”
⑦	作詩・題「紅葉」	山寺観楓
⑧	”	”
⑨	作詩・題「守歳」	歳晚書懐
⑩	”	”
⑪	作詩・題「新年」	新年筆硯
⑫	”	”
⑬	作詩・題「伊深郷」の編集	冊子の作り方
⑭	” 製本・配布	作品の反省
⑮	筆記試験	
⑯	まとめ	

【授業外学修 予習・復習など】

漢詩ができれば、漢詩大会(全日本漢詩連盟、国民文化祭)に参加してみよう。

【単位の認定評価方法及び受講上の留意点】

1. 積極的に授業に参加し、自身の基礎的な認識や理解を深め、身につけたかについて
2. 学習態度20% レポート・漢詩30% 定期試験50%
3. 以上の割合で90%以上は秀、80%以上は優、70%以上は良、60%以上は可

【テキスト及び参考文献】

参考文献:「漢詩創作講座」(日本漢詩教育会) 「五山文学集・江戸漢詩集」(日本古典文学大系 89 岩波書店)
テキスト:「だれにもできる漢詩の作り方」(呂山 太刀掛重雄 呂山詩書刊行会)2,000円
※受講時には漢和辞典を持参すること ※必要な資料は担当者の方でコピーして配布する。

科目名		日本語 I a		担当教員名		池田 丈明	
開講基準 年次	授業期間 春・秋学期	開講曜日 時限目	単位数	授業区分 講義・演習・実習	授業コマ数	必修・選択	
1	春	火曜日・1	1	演習	15	留学生必修	

サブタイトル 日本語の基礎学習

【DP(ディプロマポリシー)】

①広い社会的関心と教養を有し、宗教・仏教・禅・歴史・文化について説明でき、特に禅について深い専門的知識を習得している。

【到達目標】

- ・日本語の基礎力の習得ができる。
- ・日本語の語彙や文法を体系的に習得できる。
- ・簡単な日本語での表現ができる。

【授業概要】

初級レベルの日本語の基礎について習得を目指す。『みんなの日本語初級1』をテキストとして、日常会話に必要な基本的文法と語彙を養う。

	授業計画・内容	学習成果(キーワード)
①	ガイダンス	
②	五十音	五十音の記憶
③	ひらがな・カタカナ	ひらがな・カタカナの使い方
④	あいさつ・自己紹介	基礎会話
⑤	これ・それ・あれ	指定
⑥	ここ・そこ・あそこ・あちら	移動
⑦	時間・曜日・数字	必修語彙
⑧	～へ行く	言語行動
⑨	～ます・～ましょう	道具、手段
⑩	～な・～い	形容
⑪	好き嫌い	表現
⑫	ある・いる	品詞
⑬	数え方	数
⑭	～より・～とどちら	選択
⑮	～したい・～がほしい	希望
⑯	試験	

【授業外学修 予習・復習など】

学習成果(キーワード)について、予め調べて授業に出席して下さい。授業後には、授業の内容について簡単にまとめて下さい。

【単位の認定評価方法及び受講上の留意点】

定期試験70%・授業への取組み及び受講態度20%・レポート10%。また、授業の5分の1以上欠席すると、定期試験の受験資格がなくなりますので、注意して下さい。

【テキスト及び参考文献】

テキスト：『みんなの日本語初級1』スリーエーネットワーク
必要に応じてコピーして配布します。

科目名	日本語 I b			担当教員名	池田 丈明	
開講基準 年次	授業期間 春・秋学期	開講曜日 時限目	単位数	授業区分 講義・演習・実習	授業コマ数	必修・選択
1	春	火曜日・1	1	演習	15	留学生必修

サブタイトル 日本語での表現

【DP(ディプロマポリシー)】

①広い社会的関心と教養を有し、宗教・仏教・禅・歴史・文化について説明でき、特に禅について深い専門的知識を習得している。

【到達目標】

- ・文法や語彙の拡充により、基礎力が向上できる。
- ・物事をより詳しく説明できる表現力の習得ができる。
- ・文の構造や意味・機能を総合的に理解することができる。

【授業概要】

初級レベルの日本語の基礎について習得を目指す。『みんなの日本語初級2』をテキストとして、日常会話に必要な基本的文法と語彙を養う。

	授業計画・内容	学習成果(キーワード)
①	ガイダンス	
②	ください・ましょうか	請求
③	いいですか・いけません	質問
④	～でから・～で	場所の表現
⑤	～ないでください・なければなりません	ない形
⑥	ができます	ます形
⑦	ことがあります	た形(連用)
⑧	普通体	公と普通
⑨	と思います・といます	て形(連用)
⑩	修飾関係	修飾
⑪	～とき	時間
⑫	あげます・もらいます・くれます	受身
⑬	仮定条件・確定条件	仮定・確定
⑭	会話1	会話の仕方1
⑮	会話2	会話の仕方2
⑯	試験	

【授業外学修 予習・復習など】

学習成果(キーワード)について、予め調べて授業に出席して下さい。授業後には、授業の内容について簡単にまとめて下さい。

【単位の認定評価方法及び受講上の留意点】

定期試験70%・授業への取組み及び受講態度20%・レポート10%。また、授業の5分の1以上欠席すると、定期試験の受験資格がなくなりますので、注意して下さい。

【テキスト及び参考文献】

テキスト：『みんなの日本語初級1』スリーエーネットワーク
必要に応じてコピーして配布します。

科目名		日本語Ⅱa		担当教員名		宇佐美之規	
開講基準 年次	授業期間 春・秋学期	開講曜日 時限目	単位数	授業区分 講義・演習・実習	授業コマ数	必修・選択	
1	春	火曜日・3	1	演習	15	留学生必修	

サブタイトル	会話学習
--------	------

【DP(ディプロマポリシー)】

①広い社会的関心と教養を有し、宗教・仏教・禅・歴史・文化について説明でき、特に禅について深い専門的知識を習得している。

【到達目標】

- ・日本語での会話が中級程度話すことができる。
- ・応用的な表現を使った会話ができるようになる。
- ・ひらがな、カタカナ、簡単な漢字を理解できるようになる。

【授業概要】

中級レベルの日本語を学びます。応用的な表現を身につけて、日本語のひらがな、カタカナ、簡単な漢字の読みと意味を習得します。

	授業計画・内容	学習成果(キーワード)
①	第1課 話し言葉用法	～んです。～んですが、
②	第2課 可能動詞	まだ～ません。～は～、
③	第3課 習慣的動作	～ながら、～ています。
④	第4課 結果の状態	～が～ています。
⑤	第5課 他動詞と助詞の用法	～(よ)う。～予定です。
⑥	第6課 助言や指示	～た/ないほうがいいです。
⑦	第7課 命令形・禁止形	～てくれ。と言っていました。
⑧	第8課 名詞+のとおり	～とおりに。
⑨	第9課 自動詞と可能動詞	～ようになりました。
⑩	第10課 受身の表現	～は～に(ら)られます。
⑪	第11課 動詞文の名詞句化	～のは～です。～のが～です。
⑫	第12課 形容詞の否定形	～て、～くて、～で、～ので。
⑬	第13課 疑問詞	～かどうか、～。
⑭	第14課 ひらがな、カタカナ、簡単な漢字	ア～ン行の漢字
⑮	第15課 まとめ	
⑯	試験	

【授業外学修 予習・復習など】

学習成果(キーワード)について、予め調べて授業に出席して下さい。授業後には、授業の内容について簡単にまとめて下さい。

【単位の認定評価方法及び受講上の留意点】

定期試験70%・授業への取組み及び受講態度20%・レポート10%。また、授業の5分の1以上欠席すると、定期試験の受験資格がなくなりますので、注意して下さい。

【テキスト及び参考文献】

テキスト：『新日本語の基礎Ⅱ』（スリーエーネットワーク、2524円税抜き）
参考文献：文献等については、講義中に適時紹介します。

科目名		日本語Ⅱb		担当教員名		宇佐美之規	
開講基準 年次	授業期間 春・秋学期	開講曜日 時限目	単位数	授業区分 講義・演習・実習	授業コマ数	必修・選択	
1	秋	火曜日・3	1	演習	15	留学生必修	

サブタイトル | 会話の類似場面

【DP(ディプロマポリシー)】

①広い社会的関心と教養を有し、宗教・仏教・禅・歴史・文化について説明でき、特に禅について深い専門的知識を習得している。

【到達目標】

- ・日本語での会話が中級以上程度話することができる。
- ・より丁寧な表現を使った会話ができるようになる。
- ・ひらがな、カタカナ、漢字を理解することができるようになる。

【授業概要】

中級レベル以上の日本語を学びます。応用的な表現（丁寧な表現等々）を身につけて、日本語のひらがな、カタカナ、簡単な漢字の読みと意味を習得します。

	授業計画・内容	学習成果（キーワード）
①	第1課 ひらがな、カタカナ、簡単な漢字	ア～シ行
②	第2課 授受	～をくださいませ、やります。
③	第3課 動詞の辞書形	～ために、～(の)に。
④	第4課 動詞のます形	～そうです。～て来ます。
⑤	第5課 ひらがな、カタカナ、簡単な漢字	ス～ノ行
⑥	第6課 形容詞+すぎます1	～く/にします。
⑦	第7課 形容詞+すぎます2	～すぎました。
⑧	第8課 動詞の肯定、否定形	～します。～にくいです。
⑨	第9課 辞書形	～場合は、～。
⑩	第10課 ひらがな、カタカナ、簡単な漢字	ハ～ン行
⑪	第11課 普通形+ようです	～ようです。～そうです。
⑫	第12課 使役の用法	～は～を～(さ)せます。
⑬	第13課 尊敬	～(ら)れます。
⑭	第14課 謙譲語	お/ご～します。特別な謙譲動詞
⑮	まとめ	
⑯	試験	

【授業外学修 予習・復習など】

学習成果（キーワード）について、予め調べて授業に出席して下さい。授業後には、授業の内容について簡単にまとめて下さい。

【単位の認定評価方法及び受講上の留意点】

定期試験70%・授業への取組み及び受講態度20%・レポート10%。また、授業の5分の1以上欠席すると、定期試験の受験資格がなくなりますので、注意して下さい。

【テキスト及び参考文献】

テキスト：『新日本語の基礎Ⅱ』（スリーエーネットワーク、2524円税抜き）
参考文献：文献等については、講義中に適時紹介します。

科目名		仏教学の基礎		担当教員名		横山 紘一	
開講基準 年次	授業期間 春・秋学期	開講曜日 時限目	単位数	授業区分 講義・演習・実習	授業コマ数	必修・選択	
1	春	集中 8/1～8/5	2	講義	15	必修	

サブタイトル 仏教の基本用語を学ぶ

【DP(ディプロマポリシー)】

②宗教・仏教・禅・歴史・文化についての豊かな素養を踏まえつつ、対象を正確に理解し、表現することで、他者との相互理解に努め、組織の中で創造的に活動していくことができる。

【到達目標】

- ・ 仏教の歴史全体を把握することができる。
- ・ 各地域における仏教思想の特徴を理解できる。
- ・ 仏教の現代的意義を考察することができる。

【授業概要】

本講義は、無我・空・涅槃・縁起・菩薩などの意味を分かりやすく解説することを通して、仏教の基本思想を解説し、同時に仏教教理を日常生活の中で活かすにはどうすればよいかを随時質疑応答の形式をも織り込みながら授業を進めていく。

	授業計画・内容	学習成果(キーワード)
①	釈尊の出家の理由	四苦、輪廻
②	釈尊のさとり	無我、涅槃、中道、無上正覚
③	部派仏教の興起とその思想	本末二十部、阿毘達磨
④	存在の分析	五蘊、十八界
⑤	小乗と大乘の相違(1)	自利、利他
⑥	小乗と大乘の相違(2)	人無我、法無我
⑦	大乘の興起	般若、六波羅蜜多
⑧	般若思想の特徴	空
⑨	唯識思想の興起	弥勒、無著、世親
⑩	唯識思想の特徴	八識、
⑪	自我意識について	末那識
⑫	深層心について	阿頼耶識
⑬	深層からの浄化	正聞熏習、無分別智
⑭	ヨーガの実践	瑜伽、三昧、禪定
⑮	仏教の現代的意義	菩薩
⑯	筆記試験	

【授業外学修 予習・復習など】

キーワードを事前に調べて授業に臨んでください。

【単位の認定評価方法及び受講上の留意点】

定期試験(筆記試験70%程度)と授業への取り組み姿勢(30%程度)により行います。

【テキスト及び参考文献】

参考書：横山紘一『唯識の思想』(講談社学術文庫、1058円)

科目名		禅宗史概論		担当教員名		竹 貫 元 勝	
開講基準 年次	授業期間 春・秋学期	開講曜日 時限目	単位数	授業区分 講義・演習・実習	授業コマ数	必修・選択	
1	春	集中 8/6-8, 13, 14	2	講義	15	必修	

サブタイトル 禅宗の史的展開を概観する

【DP(ディプロマポリシー)】

②宗教・仏教・禅・歴史・文化についての豊かな素養を踏まえつつ、対象を正確に理解し、表現することで、他者との相互理解に努め、組織の中で創造的に活動していくことができる。

【到達目標】

- ・禅宗史に関する専門用語の読み方を習得し内容を理解し、禅宗史料を分析することができる。
- ・禅宗の歴史についての理解を深め、自の視点での禅宗史が語ることができる。
- ・今日の文化に禅の影響を見出し、より深く理解しその重要性を説くことができる。

【授業概要】

本講義では、インド、中国、日本における禅宗の歩んできた道を概説する。ことに日本のそれについては禅僧、その宗風、帰依者・外護者など禅と関わった人々、禅寺・庭園、絵画・墨蹟、漢詩文、茶と禅など文化に関して学んでもらい、これによって今日、さらに将来のことを考える上での一助となればと思う。

	授業計画・内容	学習成果(キーワード)
①	禅宗史研究の基本的文献	基本的な辞典、年表など
②	研究史	先学の研究成果と今後の課題
③	禅宗の起こり	釈尊、拈華微笑、西天二十八祖
④	中国禅宗の展開(1)	達磨、慧可、六祖慧能、五家七宗
⑤	中国禅宗の展開(2)	臨済義玄、黄龍派、楊岐派
⑥	日本禅宗のはじまり	古代における禅宗の伝来
⑦	鎌倉期の禅宗	栄西、道元、蘭溪道隆、鎌倉武士
⑧	南北朝期の禅宗	後醍醐天皇、花園天皇、夢窓国師、大燈国師、関山慧玄
⑨	五山と山隣派	五山制度、大徳寺、妙心寺
⑩	近世の禅宗	紫衣事件、隠元、古月、白隠
⑪	近現代の禅宗	廃仏毀釈、明治の禅匠、鈴木大拙
⑫	禅の造形	禅院建築、枯山水庭園、水墨画
⑬	禅と文字	五山文学
⑭	禅の生活文化	禅と茶、精進料理、普茶料理
⑮	まとめ	
⑯	筆記試験	

【授業外学修 予習・復習など】

禅宗史に関する概説書を必ず読むこと。

【単位の認定評価方法及び受講上の留意点】

試験 100%

【テキスト及び参考文献】

竹貫元勝著『日本禅宗史』大蔵出版 一九八九年

竹貫元勝著『新日本禅宗史』禅文化研究所 平成十一年

科目名		禅学の基礎		担当教員名		山 川 宗 玄	
開講基準 年次	授業期間 春・秋学期	開講曜日 時限目	単位数	授業区分 講義・演習・実習	授業コマ数	必修・選択	
1	春	水曜日・2	2	講義	15	必修	

サブタイトル | 修行のプロセス

【D P (ディプロマポリシー)】

②宗教・仏教・禅・歴史・文化についての豊かな素養を踏まえつつ、対象を正確に理解し、表現することで、他者との相互理解に努め、組織の中で創造的に活動していくことができる。

【到達目標】

- ・十牛図の総序の読み下しができ、その内容を理解することが出来る。
- ・十牛図の第一から第十までの内容を理解し、修行の過程を説明することが出来る。

【授業概要】

禅の基本理念を表す「十牛図」は、悟り・自性・仏心というものを牛に例え、自己の心の成長（転迷）に従い、その修證の階梯を十段階に分けて説いている。本講義に依って、本当の心の参究に加わってもらえればと思う。しかし、理念のみでは片手落ちというもので、修（坐禅の行）を通して更に参究が究明なることを期待する。授業の進度は、学生の習熟度により若干の変更あり。

	授業計画・内容	学習成果（キーワード）
①	「十牛図」 解題及び坐禅について	禅宗四部録、坐禅
②	「十牛図」 その周辺「坐禅儀」解説	摂心、修行
③	正眼寺開講式参加	廓庵禅師、慈覚大師宗頤
④	「十牛図」 総序	衆生、仏、迷い、悟り
⑤	「十牛図」 第一	尋牛
⑥	「十牛図」 第二	見跡
⑦	「十牛図」 第三	見牛
⑧	「十牛図」 第四	得牛
⑨	「十牛図」 第五	牧牛
⑩	「十牛図」 第六	騎牛帰家
⑪	「十牛図」 第七	忘牛存人
⑫	「十牛図」 第八	人牛俱忘
⑬	「十牛図」 第九	返本還源
⑭	「十牛図」 第十	入廄垂手
⑮	定期試験	
⑯	「十牛図」 まとめ	

【授業外学修 予習・復習など】

予習：語録の予定のところまで、読み方と語句について調べ授業に備える。
 復習：語録の進んだところまで、読み方とその内容について再確認をする。

【単位の認定評価方法及び受講上の留意点】

- ・4/15 開講式には出席のこと。
- ・定期試験(70%)と授業への取り組み(30%)で単位認定をする。尚、授業回数数の5分の1以上欠席をすると、定期(筆記)試験の受験資格を失う。

【テキスト及び参考文献】

テキスト：作成・配布する
 参考文献：禅の語録 16『信心銘・証道歌・十牛図・坐禅儀』筑摩書房

科目名		仏教史概論		担当教員名		池田 丈 明	
開講基準 年次	授業期間 春・秋学期	開講曜日 時限目	単位数	授業区分 講義・演習・実習	授業コマ数	必修・選択	
1・2	春	月曜日・3	2	講義	15	必修	

サブタイトル	仏教と社会
--------	-------

【DP(ディプロマポリシー)】

②宗教・仏教・禅・歴史・文化についての豊かな素養を踏まえつつ、対象を正確に理解し、表現することで、他者との相互理解に努め、組織の中で創造的に活動していくことができる。

【到達目標】

- ・ 仏教の基本教説を習得し、その意味を説明することができる。
- ・ 日本中世の仏教観の大きな転換となった「鎌倉新仏教中心論」から「顕密体制論」への移行を理解することができる。
- ・ ポスト顕密体制論を模索する広い視野を持つことができる。

【授業概要】

インド・中国・日本にわたって仏教の歴史を概説します。この講義では、歴史学の観点から仏教と社会の関係、つまり仏僧や仏教教団は社会との交渉の中でどのように思想を形成し、またどのように社会へ働きかけていったのか解説を試みます。

インド・中国・日本の一般的な歴史を再確認し、その中に仏教史を位置づけていく予定です。

	授業計画・内容	学習成果(キーワード)
①	はじめに ―原始仏教―	ゴータマ・ブッダ
②	仏教の基本教説	因果の道理・業―輪廻
③	仏教の基本教説と仏教の近代主義	仏教の近代主義
④	小乗仏教と大乘仏教	小乗仏教、大乘仏教
⑤	仏典の言語	パーリ語・サンスクリット語
⑥	大乘仏教の菩薩思想	菩提薩埵、一切衆生
⑦	中国仏教の隆盛	隋(581~618)、唐(618~907)
⑧	密教(金剛乗仏教)の成立	中期密教、恵果
⑨	古代の日本仏教	鎮護国家の思想
⑩	中世前期の日本仏教	鎌倉新仏教中心論
⑪	中世前期の日本仏教	顕密体制論
⑫	中世後期の日本仏教	ポスト顕密体制論
⑬	中世後期の日本仏教	中世仏教の枠組み再考
⑭	近世の日本仏教	仏教墮落論再考、儒教
⑮	まとめ ―仏教の近代主義―	近代主義
⑯	定期試験	

【授業外学修 予習・復習など】

受講者は、必ず学習成果(キーワード)を事前に調べたうえで、授業に臨んでください。また、議論の後に生じた疑問・質問は、オフィスアワーの時間に聞いてください。

【単位の認定評価方法及び受講上の留意点】

定期試験(筆記試験70%程度)と授業への取り組み(20%)と適宜提出していただく小レポート(10%)で成績を評価します。なお、授業時数の5分の1以上欠席すると、筆記試験の受験資格がなくなりますので注意してください。

【テキスト及び参考文献】

『臨済宗妙心寺派 勤行聖典』(臨済宗妙心寺派宗務本所、税込み1000円)

科目名		禅と人間		担当教員名		山 川 宗 玄	
開講基準 年次	授業期間 春・秋学期	開講曜日 時限目	単位数	授業区分 講義・演習・実習	授業コマ数	必修・選択	
2	秋	水曜日・2	2	講義	15	必修	

サブタイトル	見性とは何か
--------	--------

【DP(ディプロマポリシー)】

②宗教・仏教・禅・歴史・文化についての豊かな素養を踏まえつつ、対象を正確に理解し、表現することで、他者との相互理解に努め、組織の中で創造的に活動していくことができる。

【到達目標】

- ・『六祖壇経』の読み下しができ、その内容を理解することが出来る。
- ・『六祖壇経』における見性について説明することが出来る。

【授業概要】

唐代の初め、六祖慧能大鑑禪師より禅の根本的な教えである『六祖壇経』が説かれた。禅を学ぶ者は、この原点に一度は返らねばならない。また見性という、今日臨済禪師が一番大事にしなければならぬ、宗教的体験を平易に指示、説かれたものであるから、その内容を理解し説明できる能力を身につけることを目的として取り組む。授業の進度は、学生の習熟度により若干の変更あり。

	授業計画・内容	学習成果(キーワード)
①	『六祖壇経』の解題と達磨より六祖に到る禅宗史	達磨、慧可、僧璨、道信、弘忍
②	序文	慧能
③	本文 縁起説法門	摩訶般若波羅蜜、無相戒
④	本文 悟法伝衣門	金剛経「応无所住 而生其心」 黄梅
⑤	本文 悟法伝衣門	人即有南北 佛性無南北
⑥	本文 悟法伝衣門	身是菩提樹 心如明鏡臺 時時勤拂拭 莫使有塵埃
⑦	本文 悟法伝衣門	菩提本無樹 明鏡亦無臺 本來無一物 何處有塵垢
⑧	本文 為時衆説定慧門	禅、定慧
⑨	本文 為時衆説定慧門	禅、定慧
⑩	本文 教授坐禅門	無念、無相、無住
⑪	本文 教授坐禅門	無念、無相、無住
⑫	本文 説伝吉懺悔発願門	無想戒、清浄法身仏、四弘誓願
⑬	本文 説伝吉懺悔発願門	三帰依戒、懺悔、三宝
⑭	定期試験	摩訶般若波羅蜜
⑮	本文 説一体三身仏相門	
⑯	まとめ	

【授業外学修 予習・復習など】

予習：『六祖壇経』の予定のところまで、読み方と語句について調べ授業に備える。
 復習：『六祖壇経』の進んだところまで、読み方とその内容について再確認をする。

【単位の認定評価方法及び受講上の留意点】

- ・2/1 講了式には出席のこと。
- ・定期試験(70%)と授業への取り組み(30%)で単位認定をする。尚、授業回数数の5分の1以上欠席をすると、定期(筆記)試験の受験資格を失う。

【テキスト及び参考文献】

テキスト：作成・配布する
 参考文献：『禅語録』柳田聖山著 中央公論社

科目名	提唱・禅語録Ⅰa／Ⅱa			担当教員名	山川宗玄	
開講基準 年次	授業期間 春・秋学期	開講曜日 時限目	単位数	授業区分 講義・演習・実習	授業コマ数	必修・選択
1／2	春	水曜日・1	2	講義	15	必修

サブタイトル	さとの説法
--------	-------

【DP(ディプロマポリシー)】

③建学の精神(学行一体)を深く理解し、実践し続けるために豊かな人間性と高い倫理・道徳観を備え、協調性をもち社会に貢献できる能力を有している。

【到達目標】

- ・禅の修行の道筋を理解する。
- ・漢文の読解力を高める。
- ・個々人の様々な問題に対して解決意思力を向上させる。

【授業概要】

提唱とは提(ひっさ)げ唱(とな)えるということで、禅の専門道場に於ける独特の講座である。それは一般的の講義・講話と異なり、道場の指導者、これを師家(しけ)というが、師家の実体験を丸出しにした説話である。修行の方向と人生全般に亘る師家の講義ともいえる。そして、修行の先達である祖師方の行履(あんり)を、その語録から学ぶ。聴講者の心の開発に与ればと思う。

尚、正眼僧堂で修行中の雲水と共の聴講となるが、その形式も含め提唱なのだと思いたい。今年度は臨濟禅の語録の代表ともいべき無門慧開禅師の「無門関」を講本とする。

	授業計画・内容	学習成果(キーワード)
①	提唱ガイダンス 祖師、語録の意味	提唱、祖師、語録、
②	提唱ガイダンス 臨濟禅の法系について	中国の祖師方から大応、大燈、関山に至る
③	無門関 第17則 国師三喚	三応
④	” 第18則 洞山三斤	麻三斤
⑤	” 第19則 平常是道	平常心
⑥	” 第20則 大力量人	松源和尚、無門
⑦	” 第21則 雲門屎厥	乾屎厥
⑧	” 第22則 迦葉刹竿	一轉語
⑨	” 第23則 不思善惡	衣鉢、伝法
⑩	” 第24則 離卻語言	柳緑花紅
⑪	” 第25則 三座説法	夢
⑫	” 第26則 二僧卷簾	一隻眼
⑬	” 第27則 不是心佛	無
⑭	” 第28則 久嚮龍潭	吹滅
⑮	” 第29則 非風非幡	心動
⑯	定期試験	

※但し、僧堂の提唱との兼ね合いで、必ずしもこの順番通りではない。

【授業外学修 予習・復習など】

予習：語録の予定のところまで、読み方と語句について調べ授業に備える。

復習：語録の進んだところまで、読み方とその内容について再確認をする。

【単位の認定評価方法及び受講上の留意点】

- ・4/15 開講式には出席のこと。
- ・定期試験(70%)と授業への取り組み(30%)で単位認定をする。尚、授業回数の5分の1以上の欠席をすると、定期(筆記)試験の受験資格を失う。

【テキスト及び参考文献】

テキスト：作成・配布する。

参考文献：禅の語録 18 無門関(筑摩書房)その他多数あり

科目名	提唱・禪語録 I b / II b			担当教員名	山 川 宗 玄	
開講基準 年次	授業期間 春・秋学期	開講曜日 時限目	単位数	授業区分 講義・演習・実習	授業コマ数	必修・選択
1 / 2	春	水曜日・1	2	講義	15	必修

サブタイトル	さとの説法
--------	-------

【DP (ディプロマポリシー)】

③建学の精神 (学行一体) を深く理解し、実践し続けるために豊かな人間性と高い倫理・道徳観を備え、協調性を持ち社会に貢献できる能力を有している。

【到達目標】

- ・ 禅の修行の道筋を理解する。
- ・ 漢文の読解力を高める。
- ・ 個々人の様々な問題に対して解決意思力を向上させる。

【授業概要】

提唱とは提 (ひっさ) げ唱 (とな) えるということで、禅の専門道場に於ける独特の講座である。それは一般的の講義・講話と異なり、道場の指導者、これを師家 (しけ) というが、師家の実体験を丸出しにした説話である。修行の方向と人生全般に亘る師家の講義ともいえる。そして、修行の先達である祖師方の行履 (あんり) を、その語録から学ぶ。聴講者の心の開発に与ればと思う。

I a / II a のとおりであるが、専門道場 (僧堂) では1年を2期に分けそれぞれ雨安居 (4月~7月)、雪安居 (11月~1月) のこの期間 (制中という) のみ提唱を行う。よって秋学期も引き続き、同じ語録を読み解いていくことにする。

	授業計画・内容	学習成果 (キーワード)
①	提唱ガイダンス 祖師、語録の意味	提唱、祖師、語録、
②	提唱ガイダンス 臨濟禅の法系について	中国の祖師方から大応、大燈、関山に至る
③	無門関 第30則 即心即佛	佛
④	” 第31則 趙州勘婆	驀直去
⑤	” 第32則 外道問佛	迷雲、外道
⑥	” 第33則 非心非佛	大事了畢
⑦	” 第34則 智不是道	智恩
⑧	” 第35則 倩女離魂	地水火風
⑨	” 第36則 路逢達道	達道
⑩	” 第37則 庭前柏樹	祖師西来意
⑪	” 第38則 牛過窓櫺	四恩、三有
⑫	” 第39則 雲門話墮	光明寂照、張拙
⑬	” 第40則 擗倒浄瓶	伝法
⑭	” 第41則 達磨安心	断臂、安心
⑮	” 第42則 女子出定	三昧
⑯	定期試験	

※但し、僧堂の提唱との兼ね合いで、必ずしもこの順番通りではない。

【授業外学修 予習・復習など】

予習：語録の予定のところまで、読み方と語句について調べ授業に備える。

復習：語録の進んだところまで、読み方とその内容について再確認をする。

【単位の認定評価方法及び受講上の留意点】

- ・ 2/1 講了式には出席のこと。
- ・ 定期試験 (70%) と授業への取り組み (30%) で単位認定をする。尚、授業回数数の5分の1以上の欠席をすると、定期 (筆記) 試験の受験資格を失う。

【テキスト及び参考文献】

テキスト：作成・配布する。

参考文献：禅の語録 18 無門関 (筑摩書房) その他多数あり

科目名		禅の作法と心得 a		担当教員名	フォーマルス アタレ(風神覚静)	
開講基準 年次	授業期間 春・秋学期	開講曜日 時限目	単位数	授業区分 講義・演習・実習	授業コマ数	必修・選択
1	春	金曜日・2	1	演習	15	必修

サブタイトル	禅を体で理解しよう
--------	-----------

【DP(ディプロマポリシー)】

①広い社会的関心と教養を有し、宗教・仏教・禅・歴史・文化について説明でき、特に禅について深い専門的知識を習得している。

【到達目標】

- ・禅の修行における作法を習得して実践することができる
- ・禅の作法を実践しながら、他と強調して行動することができる。
- ・禅の心得を理解し、自分の人生や生活に応用することができる。

【授業概要】

禅の修行は長い歴史の中で、修行道場で培われ、合理化簡略化された。本学では、禅の基本と建学の精神「行学一体」を学生生活の中に取り入れ、僧堂入門や僧侶育成を見据えて学生生活表やカリキュラムを組んでいる。本授業では、合掌などの基本作法、経や回向の読誦、食事作法など実習を中心にして学ぶものである。僧侶の道を目指さない学生であっても、禅の作法を習得してその心得を理解しこれからの人生に生かして頂きたい。

	授業計画・内容	学習成果(キーワード)
①	オリエンテーション a: 合掌、叉手、拝作法、立定作法	印、仏足礼、我と仏、開浴
②	禅の作法 a: 低頭、問訊、坐禅堂内作法	単縁(たんぶち)、上下(かみしも)
③	食事作法 a: 持鉢作法、食事作法	背筋、椀を守る、黙守
④	飯台看法 a: 飯汁菜汁飯菜汁飯湯生飯折水	飯器、汁器、菜器、湯器、折水器
⑤	経典読誦作法 a: 経の持ち方、声の出し方、木魚読み	木魚、大磬、小磬、維那(いのう)
⑥	経典読誦作法 a: 維那(いのう)作法、回向作法	経首、声明、大磬、小磬
⑦	茶礼作法 a: 供茶、総茶礼作法	侍者、湯器、折水器
⑧	禅宗鳴らし物作法 a: 支度と出頭	五声支度、連声出頭、七五三出頭
⑨	拝敷作法 a: 拝敷、座具展開作法	拝、袈裟
⑩	法鼓作法 a: 法鼓出頭の打ち方、	雷鳴、角打
⑪	経典読誦作法 a: 大悲咒平拳、楞嚴咒 1	声明、行道、立誦、座誦
⑫	経典読誦作法 a: 大悲咒平拳、楞嚴咒 2、韋駄天諷経	金剛鈴
⑬	特為茶作法 a: 縁高、天目台作法	尊侍、茶頭
⑭	衣畳作法 a: 着物の畳方、衣の畳方	たとう紙
⑮	施餓鬼作法 a: 水向け作法、焼香作法	生飯(さば)、洗米
⑯	試験	

【授業外学修 予習・復習など】

キーワードや授業内容を図書館の江湖法式梵唄や臨済宗衲観等で事前学習してください。また、授業で学んだ作法を、何度も繰り返し練習して体で覚えるようにしてください。

【単位の認定評価方法及び受講上の留意点】

経典暗唱試験(般若心経、大悲咒、消災咒、開甘露門、飯台座経) 50%、持鉢展鉢試験 20%、授業取り組み 30%で単位を認定する。なお、授業時数の5分の1以上欠席(遅刻・早退は2回で1回の欠席)すると試験受験資格を失格する。

【テキスト及び参考文献】

参考文献:『江湖法式梵唄抄』監修 加藤隆芳・水野泰嶺・森弘宗 編集 法式梵唄刊行会 禅文化研究所刊 16,000円
『臨済宗衲観』伊藤古鑑 其中堂刊 3,500円

科目名		禅の作法と心得b		担当教員名	フォーマルス アタレ(風神覚静)	
開講基準 年次	授業期間 春・秋学期	開講曜日 時限目	単位数	授業区分 講義・演習・実習	授業コマ数	必修・選択
1	秋	金曜日・2	1	演習	15	必修

サブタイトル	禅を体で理解しよう
--------	-----------

【DP(ディプロマポリシー)】

①広い社会的関心と教養を有し、宗教・仏教・禅・歴史・文化について説明でき、特に禅について深い専門的知識を習得している。

【到達目標】

- ・禅の修行における作法を習得して実践することができる
- ・禅の作法を実践しながら、他と強調して行動することができる。
- ・禅の心得を理解し、自分の人生や生活に応用することができる。

【授業概要】

禅の修行は長い歴史の中で、修行道場で培われ、合理化簡略化された。本学では、禅の基本と建学の精神「行学一体」を学生生活の中に取り入れ、僧堂入門や僧侶育成を見据えて学生生活表やカリキュラムを組んでいる。本授業では、合掌などの基本作法、経や回向の読誦、食事作法など実習を中心にして学ぶものである。僧侶の道を目指さない学生であっても、禅の作法を習得してその心得を理解しこれからの人生に生かして頂きたい。

	授業計画・内容	学習成果(キーワード)
①	オリエンテーションb:合掌、叉手、拝作法、立定作法	印、仏足礼、我と仏、開浴
②	禅の作法b:低頭、問訊、坐禅堂内作法	単縁(たんぶち)、上下(かみしも)
③	食事作法b:持鉢作法、食事作法	背筋、椀を守る、黙守
④	飯台看法b:飯汁菜汁飯菜汁飯湯生飯折水	飯器、汁器、菜器、湯器、折水器
⑤	経典読誦作法b:経の持ち方、声の出し方、木魚読み	木魚、大磬、小磬、維那(いのう)
⑥	経典読誦作法b:維那(いのう)作法、回向作法	経首、声明、大磬、小磬
⑦	茶礼作法b:供茶、総茶礼作法	侍者、湯器、折水器
⑧	禅宗鳴らし物作法b:支度と出頭	五声支度、連声出頭、七五三出頭
⑨	拝敷作法b:拝敷、座具展開作法	拝、袈裟
⑩	法鼓作法b:法鼓出頭の打ち方、	雷鳴、角打
⑪	経典読誦作法b:大悲咒平拳、楞嚴咒1	声明、行道、立誦、座誦
⑫	経典読誦作法b:大悲咒平拳、楞嚴咒2、韋駄天諷経	金剛鈴
⑬	特為茶作法b:縁高、天目台作法	尊侍、茶頭
⑭	衣畳作法b:着物の畳方、衣の畳方	たとう紙
⑮	施餓鬼作法b:水向け作法、焼香作法	生飯(さば)、洗米
⑯	試験	

【授業外学修 予習・復習など】

キーワードや授業内容を図書館の江湖法式梵唄や臨済宗衲観等で事前学習してください。
また、授業で学んだ作法を、何度も繰り返し練習して体で覚えるようにしてください。

【単位の認定評価方法及び受講上の留意点】

経典暗唱試験(般若心経、大悲咒、消災咒、開甘露門、飯台座経)50%、持鉢展鉢試験20%、
授業取り組み30%で単位を認定する。なお、授業時数の5分の1以上欠席(遅刻・早退は2回で1回の欠席)すると試験受験資格を失格する。

【テキスト及び参考文献】

参考文献:『江湖法式梵唄抄』監修 加藤隆芳・水野泰嶺・森弘宗 編集 法式梵唄刊行会 禅文化研究所刊 16,000円
『臨済宗衲観』伊藤古鑑 其中堂刊 3,500円

科目名	建学の精神フィールドワークⅠ／Ⅱ		担当教員名	学長・他教員		
開講基準 年次	授業期間 春・秋学期	開講曜日 時限目	単位数	授業区分 講義・演習・実習	授業コマ数	必修・選択
1 / 2	秋	2 / 6 ~ 9	1	演習	15	必修

サブタイトル	四国八十八ヶ所お遍路研修
--------	--------------

【DP(ディプロマポリシー)】

③建学の精神(学行一体)を深く理解し、実践し続けるために豊かな人間性と高い倫理・道徳観を備え、協調性をもち社会に貢献できる能力を有している。

【到達目標】

- ・ 集団行動と集団生活を通して、社会性と協調性を身につける。
- ・ 現代の信仰の現場を体験し、敬うという精神を身につける。
- ・ 自ら行動し、他人を気遣い助けることができるようにする。

【授業概要】

本演習は、集中授業であり、全学生で3泊4日のフィールドワーク(学外研修)を中心とする。本年度はお遍路・四国八十八ヶ所巡り香川県で、三豊市弥谷寺から高松市屋島寺までを予定している。秋学期に説明会を開き、班分けをし、各班の担当寺院を決める。各班はそれぞれ「お経、回向、真言」を練習し、また担当寺院について下調べをすること。フィールドワーク当日は各班で寺院の説明と、読経の「維那」を行ってもらう。なお、天候等により、日程については若干の変更あり。

	授業計画・内容	学習成果(キーワード)
①	11/30 説明会	
②	1/17 フィールドワーク練習1	
③	2/2 フィールドワーク練習2	
④	1/18 読経発表会	
⑤	2/6 研修第1日目	71 番弥谷寺
⑥	2/6 研修第1日目	72 番曼茶羅寺
⑦	2/6 研修第1日目	73 番出釈迦寺
⑧	2/7 研修第2日目	74 番甲山寺、75 番善通寺
⑨	2/7 研修第2日目	76 番金倉寺、77 番道隆寺
⑩	2/7 研修第2日目	78 番郷照寺
⑪	2/8 研修第3日目	79 番天皇寺、80 番国分寺
⑫	2/8 研修第3日目	81 番白峰寺、82 番根香寺
⑬	2/8 研修第3日目	83 番一宮寺
⑭	2/9 研修第4日目	84 番屋島寺
⑮	2/9 研修第4日目	
⑯	2/9 研修第4日目	

【授業外学修 予習・復習など】

班分け後、各班で「お経、回向、真言」を練習し、また担当寺院について下調べをすること。

【単位の認定評価方法及び受講上の留意点】

単位はフィールドワーク練習2回(20%)・読経発表会(10%)・フィールドワーク研修(50%)への取り組み方、研修後のレポート(20%)によって評価する。本学の学生は卒業までに2度フィールドワークを実修しなければならない。

【テキスト及び参考文献】

テキスト：必要な資料はコピーを配布します。
参考文献：適宜紹介します。

科目名		卒業実践研究 a		担当教員名	各指導教官	
開講基準 年次	授業期間 春・秋学期	開講曜日 時限目	単位数	授業区分 講義・演習・実習	授業コマ数	必修・選択
2	春	木曜日・3	卒業実践研究 b と合わせて 2 単位	演習	15	必修

サブタイトル	随所に主となる
--------	---------

【DP (ディプロマポリシー)】

④主体的自己を確立することにより、さまざまな問題を分析し解決することができる能力を身につけている。

【到達目標】

- ・章立てを決めた上で、参考文献や資料を活用し各自の表現で論文を完成する。
- ・実技やフィールドワーク等を行い、20回分の実践記録を作成し論文と関連づける。
- ・卒業実践研究発表会において実践論文の成果を各自の言葉で報告する。

【授業概要】

本研究は、学生の興味関心のあるテーマを選定し、論文指導教官（本学専任教員）のもとで論文を作成し、同時に実践指導教官（非常勤講師を含む）のもとで実践記録を積み重ね、実践の習得に努めるものです。1 回生の後期に、教務部が行う「卒業実践研究アンケート」に必要事項を記入し提出すると、その後に論文指導教官が発表されます。論文指導教官が決まった学生は、実践指導教官になっていただく先生に願います。指導教官のもとで資料を集め、必要な文献の読解などを行い、論文の骨子、章立てを作成しながら、実践の習得を行います。章立てを作成した後に、「卒業実践研究論文計画書」を提出し、実践論文の構想を卒業実践研究構想発表会にて発表します（卒業実践研究 b（秋学期）から始めた学生の概要等は、卒業実践研究 a（春学期）に準じます）。

	授業計画・内容	学習成果（キーワード）
①	卒業実践研究について（教務部ガイダンス）	
②	アンケートにより指導教官の発表	
③	実践論文記録用紙の書き方等について	
④	研究、実践指導	参考文献・資料の収集
⑤	研究、実践指導	章立ての作成
⑥	研究、実践指導	実践内容を決定し計画立案
⑦	卒業実践研究構想発表会	卒業実践研究論文計画書の提出
⑧	研究、実践指導	参考文献・資料の読解
⑨	研究、実践指導	実践記録の作成
⑩	研究、実践指導	（巡見・作品制作等の作業）
⑪	研究、実践指導	研究相談・状況報告
⑫	研究、実践指導	研究相談・状況報告
⑬	第 1 次提出	指導教官によるコメント・添削指導
⑭	研究、実践指導	研究相談・状況報告
⑮	研究、実践指導	研究相談・状況報告
⑯	研究、実践指導	研究相談・状況報告

【授業外学修 予習・復習など】

教官の指示に従い、計画的に研究と実践を進めるようにしてください。

【単位の認定評価方法及び受講上の留意点】

主査・副査の評価（40%程度）及び発表会の審査点（60%程度）による総合評価とします。この演習に関わる日程等については、教務部より資料を配付します。

【テキスト及び参考文献】

テキスト：
参考文献：

科目名		卒業実践研究 b		担当教員名	各指導教官	
開講基準 年次	授業期間 春・秋学期	開講曜日 時限目	単位数	授業区分 講義・演習・実習	授業コマ数	必修・選択
2	秋	木曜日・3	卒業実践研究 a と合わせて 2 単位	演習	15	必修

サブタイトル	随所に主となる
--------	---------

【D P (ディプロマポリシー)】

④主体的自己を確立することにより、さまざまな問題を分析し解決することができる能力を身につけている。

【到達目標】

- ・章立てを決めた上で、参考文献や資料を活用し各自の表現で論文を完成する。
- ・実技やフィールドワーク等を行い、20回分の実践記録を作成し論文と関連づける。
- ・卒業実践研究発表会において実践論文の成果を各自の言葉で報告する。

【授業概要】

本研究は、卒業実践研究 a を受けて、構想により論文及び実践研究を指導教官のもとですすめ、ワードあるいは一太郎ファイルに保存したうえで A 4 用紙に印刷し、期限日までに教務部へ論文一式を提出します。その後、全学合同発表会で各自発表を行います（卒業実践研究 b 〈秋学期〉から始めた学生の概要等は、卒業実践研究 a 〈春学期〉に準じます）。

	授業計画・内容	学習成果（キーワード）
①	研究、実践指導	研究相談・状況報告
②	研究、実践指導	研究相談・状況報告
③	研究、実践指導	研究相談・状況報告
④	研究、実践指導	研究相談・状況報告
⑤	研究、実践指導	研究相談・状況報告
⑥	研究、実践指導	研究相談・状況報告
⑦	研究、実践指導	研究相談・状況報告
⑧	研究、実践指導	研究相談・状況報告
⑨	第 2 次提出	指導教官によるコメント・添削指導
⑩	研究、実践指導	研究相談・状況報告
⑪	研究、実践指導	研究相談・状況報告
⑫	研究、実践指導	研究相談・状況報告
⑬	第 3 次提出	指導教官によるコメント・添削指導
⑭	研究、実践指導	提出論文一式の完成を確認
⑮	実践論文提出	
⑯	卒業実践論文発表会	

【授業外学修 予習・復習など】

教官の指示に従い、計画的に研究と実践を進めるようにしてください。

【単位の認定評価方法及び受講上の留意点】

主査・副査の評価（40%程度）及び発表会の審査点（60%程度）による総合評価とします。この演習に関わる日程等については、教務部より資料を配付します。

【テキスト及び参考文献】

テキスト：
参考文献：

科目名	布教学 a			担当教員名	岐阜東教区布教師会 代表 田尻和光	
開講基準 年次	授業期間 春・秋学期	開講曜日 時限目	単位数	授業区分 講義・演習・実習	授業コマ数	必修・選択
1・2	春	水曜日・3 13:15～14:45	2	演習	15	選択

サブタイトル 人々に仏教・禅を届ける

【DP(ディプロマポリシー)】

②宗教・仏教・禅・歴史・文化についての豊かな素養を踏まえつつ、対象を正確に理解し、表現することで、他者との相互理解に努め、組織の中で創造的に活動していくことができる。

【到達目標】

- ・禅や仏教を易しくわかりやすく法話することができる。
- ・仏教や禅の思想を理解し、その特徴を説明することができる。
- ・聴衆の年齢等に合わせて法話をすることができる。

【授業概要】

本演習では布教における基本的な心構えや方法を学び、仏教や禅宗の根本思想・教義の理解を促せるように人々の関心を起こし、その内容を説明できる能力を身につけることを目的として取り組む。授業の進度は、学生の習熟度により若干の変更あり。

	授業計画・内容	学習成果(キーワード)
①	布教とは	心の窓
②	布教の心得、布教実習	起承転結
③	布教における重要点、布教実習、布教実習	例話の挿入
④	布教における四法印 諸行無常、布教実習	縁起
⑤	布教における四法印 諸法無我、布教実習	因縁
⑥	布教における四法印 一切皆苦、布教実習	四苦八苦
⑦	布教における四法印 涅槃寂静、布教実習	三昧
⑧	布教における四無量心 慈、布教実習	幸福
⑨	布教における四無量心 悲、布教実習	抜苦
⑩	布教における四無量心 喜、布教実習	同感
⑪	布教における四無量心 捨、布教実習	平常心
⑫	布教における四摂法 愛語、布教実習	無財施
⑬	布教における四摂法 布施、布教実習	共生
⑭	布教における四摂法 利行、布教実習	自利利他
⑮	布教における四摂法 同事、布教実習	平等
⑯	定期試験	

【授業外学修 予習・復習など】

この授業の履修にあたり、学習成果(キーワード)の予習(読み方、意味等を調べる)を行い、授業後には講義の内容を確認して下さい。質問等は授業中で受け付けます。

【単位の認定評価方法及び受講上の留意点】

評価は、定期試験(筆記試験 持ち込み不可 50%)、授業での法話発表(40%)、授業への取り組み姿勢(10%)により評価を行う。

なお、授業時数の5分の1以上欠席(遅刻・早退は2回で1回の欠席)すると失格となります。

【テキスト及び参考文献】

テキスト：随時プリントを配布致します。

参考文献：必要な文献については、講義中に適宜紹介する。

科目名	布教学b			担当教員名	岐阜東教区布教師会 代表 田尻和光	
開講基準 年次	授業期間 春・秋学期	開講曜日 時限目	単位数	授業区分 講義・演習・実習	授業コマ数	必修・選択
1・2	秋	水曜日・3 13:15～14:45	2	演習	15	選択

サブタイトル 人々に禅・仏教を届ける

【DP(ディプロマポリシー)】

②宗教・仏教・禅・歴史・文化についての豊かな素養を踏まえつつ、対象を正確に理解し、表現することで、他者との相互理解に努め、組織の中で創造的に活動していくことができる。

【到達目標】

- ・禅や仏教を易しくわかりやすく法話することができる。
- ・仏教や禅の思想を理解し、その特徴を説明することができる。
- ・聴衆の年齢等に合わせて法話をすることができる。

【授業概要】

本演習では布教における基本的な心構えや方法を学び、仏教や禅宗の根本思想・教義の理解を促せるように人々の関心を起こし、その内容を説明できる能力を身につけることを目的として取り組む。授業の進度は、学生の習熟度により若干の変更あり。

	授業計画・内容	学習成果(キーワード)
①	布教とは	心の窓
②	布教の心得、布教実習	起承転結
③	布教における重要点、布教実習、布教実習	例話の挿入
④	布教における 禅 不立文字、布教実習	教外別伝
⑤	布教における 禅 無功德、布教実習	菩提達磨
⑥	布教における 禅 行住坐臥、布教実習	慧能
⑦	布教における 禅 主人公、布教実習	惺惺着
⑧	布教における 禅 即今当処、布教実習	今、ここに生きる
⑨	布教における 禅 一無位真人、布教実習	無修無証
⑩	布教における 禅 報恩謝徳、布教実習	花園法王
⑪	布教における、禅 莫妄想、布教実習	両忘
⑫	布教における、禅 請務其本、布教実習	開山無相大師
⑬	布教における、禅 無事、布教実習	求心歇処
⑭	布教における、禅 正法眼蔵、布教実習	瞎驢眼
⑮	布教における、禅 冷暖自知、布教実習	他不是吾
⑯	定期試験	

【授業外学修 予習・復習など】

この授業の履修にあたり、学習成果(キーワード)の予習(読み方、意味等を調べる)を行い、授業後には講義の内容を確認して下さい。質問等は授業中に受け付けます。

【単位の認定評価方法及び受講上の留意点】

評価は、定期試験(筆記試験 持ち込み不可 50%)、授業での法話発表(40%)、授業への取り組み姿勢(10%)により評価を行う。

なお、授業時数の5分の1以上欠席(遅刻・早退は2回で1回の欠席)すると失格となります。

【テキスト及び参考文献】

テキスト：随時配布致します。

参考文献：必要な文献については、講義中に適宜紹介する。

科目名		僧侶必携 a		担当教員名		後藤安弘	
開講基準 年次	授業期間 春・秋学期	開講曜日 時限目	単位数	授業区分 講義・演習・実習	授業コマ数	必修・選択	
1・2	春	月曜日・1	2	講義	15	選択	

サブタイトル	宗門人の基礎知識
--------	----------

【DP(ディプロマポリシー)】

②宗教・仏教・禅・歴史・文化についての豊かな素養を踏まえつつ、対象を正確に理解し、表現することで、他者との相互理解に努め、組織の中で創造的に活動していくことができる。

【到達目標】

- ・ 仏教や禅の基礎知識についての理解を深めることができる。
- ・ 仏教や禅の意義について他者に向かって表現することができる。
- ・ 仏教や禅の知識に即して寺門の運営や檀信徒の教化ができる。

【授業概要】

臨済宗妙心寺派は、寺院の住職になるために、前堂職研修会内で、『僧侶必携』をテキストとして試験が行われる。宗門人としての基礎知識が網羅されており、檀信徒からの質問への答えや教化のテキストとなっている。本講義は、『僧侶必携』をテキストとして、仏教や禅の基礎知識を学び、宗門人としての資質を修得して頂きたい。

	授業計画・内容	学習成果(キーワード)
①	仏教用語Ⅰ：三学、三法印、四諦、八正道	テーラ、禅語二句
②	仏教用語Ⅱ：帰依三宝、三界、六道、縁起	アリヤ、禅語二句
③	仏教用語Ⅲ：中道、三業、三毒、五欲	ドウッカ、禅語二句
④	祖師伝Ⅰ：釈尊、菩提達磨、百丈懷海、臨済義玄	ブツダ、禅語二句
⑤	祖師伝Ⅱ：松源崇岳、榮西、道元、南浦紹明	臨済、曹洞、禅語二句
⑥	祖師伝Ⅲ：宗峰妙超、開山、授翁宗弼、無因宗因	応灯関、禅語二句
⑦	経典・語録Ⅰ：心経、消災咒、大悲咒、信心銘、証道歌	真言、禅語二句
⑧	経典・語録Ⅱ：楞嚴咒、観音経、開甘露門、十牛図、坐禅儀	大乘、禅語二句
⑨	経典・語録Ⅲ：仏頂尊、金剛経、六祖壇経、伝心法要	禅源、禅語二句
⑩	禅寺Ⅰ：建仁寺、東福寺、南禅寺、大徳寺、妙心寺	伽藍、禅語二句
⑪	仏像Ⅰ：釈迦～大日如来、文殊～観音菩薩	僧形、瓔珞、禅語二句
⑫	行事Ⅰ：日課行事、月例行事、修正会、善月祈祷	二祖忌、三仏忌禅語二句
⑬	禅文化Ⅰ：七堂伽藍～経蔵	禅語二句
⑭	人権擁護Ⅰ：同和問題、人権、差別、同宗連	禅語二句
⑮	祖師の語Ⅰ：諸悪莫作～冷暖自知	禅語二句
⑯	試験	

【授業外学修 予習・復習など】

『僧侶必携』を何度も読み、座右の書にして下さい。また、キーワードの意味を理解するように予習を行うこと。

【単位の認定評価方法及び受講上の留意点】

評価は、定期試験(筆記試験 持ち込み不可 80%)、授業への取り組み(20%)により評価を行う。
なお、授業時数の5分の1以上欠席(遅刻・早退は2回で1回の欠席)すると試験受験資格を失格します。

【テキスト及び参考文献】

テキスト：『僧侶必携』妙心寺派教化研究会 妙心寺宗務本所 1,000円

科目名		僧侶必携b		担当教員名		後藤安弘	
開講基準 年次	授業期間 春・秋学期	開講曜日 時限目	単位数	授業区分 講義・演習・実習	授業コマ数	必修・選択	
1・2	秋	月曜日・1	2	講義	15	選択	

サブタイトル 宗門人の基礎知識

【DP(ディプロマポリシー)】

②宗教・仏教・禅・歴史・文化についての豊かな素養を踏まえつつ、対象を正確に理解し、表現することで、他者との相互理解に努め、組織の中で創造的に活動していくことができる。

【到達目標】

- ・ 仏教や禅の基礎知識についての理解を深めることができる。
- ・ 仏教や禅の意義について他者に向かって表現することができる。
- ・ 仏教や禅の知識に即して寺門の運営や檀信徒の教化ができる。

【授業概要】

臨済宗妙心寺派は、寺院の住職になるために、前堂職研修会内で、『僧侶必携』をテキストとして試験が行われる。宗門人としての基礎知識が網羅されており、檀信徒からの質問への答えや教化のテキストとなっている。本講義は、『僧侶必携』をテキストとして、仏教や禅の基礎知識を学び、宗門人としての資質を修得して頂きたい。

	授業計画・内容	学習成果(キーワード)
①	仏教用語Ⅰ：六波羅蜜、無財施、懺悔、大乘	テーラ、禅語二句
②	仏教用語Ⅱ：菩提心、誓願、四攝法、四無量心	アリヤ、禅語二句
③	仏教用語Ⅲ：五蘊、空、三聚淨戒、五眼	ドウッカ、禅語二句
④	祖師伝Ⅰ：日峰宗舜、義天玄詔、雪江宗深、景川宗隆	ブツダ、禅語二句
⑤	祖師伝Ⅱ：悟溪宗頓、特芳禅傑、東陽英朝、愚堂東寔	臨済、曹洞、禅語二句
⑥	祖師伝Ⅲ：盤珪永琢、白隠慧鶴、花園法王	応灯関、禅語二句
⑦	経典・語録Ⅰ：舍利礼文、四弘誓願文、臨済録、趙州録	真言、禅語二句
⑧	経典・語録Ⅱ：食事五観文、宗門安心章、碧巖録、無門関	大乘、禅語二句
⑨	経典・語録Ⅲ：坐禅和讃、十句観音経、回向 禅関策進他	禅源、禅語二句
⑩	禅寺Ⅰ：天龍、相国、万福、建長、円覚寺	伽藍、禅語二句
⑪	仏像Ⅰ：地藏菩薩～韋駄天	文殊、普賢、観音菩薩禅語二句
⑫	行事Ⅰ：臨済忌～葬儀	禅語二句
⑬	禅文化Ⅰ：東司～料理	禅語二句
⑭	人権擁護Ⅰ：差別～三世因果	禅語二句
⑮	祖師の語Ⅰ：説似一物即不中～動中の工夫	禅語二句
⑯	試験	

【授業外学修 予習・復習など】

『僧侶必携』を何度も読み、座右の書にして下さい。また、キーワードの意味を理解するように予習を行うこと。

【単位の認定評価方法及び受講上の留意点】

評価は、定期試験(筆記試験 持ち込み不可 80%)、授業への取り組み(20%)により評価を行う。
なお、授業時数の5分の1以上欠席(遅刻・早退は2回で1回の欠席)すると試験受験資格を失格します。

【テキスト及び参考文献】

テキスト：『僧侶必携』妙心寺派教化研究会 妙心寺宗務本所 1,000円

科目名	坐禅Ⅰa／Ⅱa			担当教員名	青井有信・フォマルス アタレ	
開講基準 年次	授業期間 春・秋学期	開講曜日 時限目	単位数	授業区分 講義・演習・実習	授業コマ数	必修・選択
1・2	春	木曜日・2	1	実習	22.5	必修

サブタイトル | よりよく生きるため日常生活に坐禅を取り入れてみましょう！

【D P (ディプロマポリシー)】

建学の精神（行学一体）を深く理解し、実践し続けるために豊かな人間性と高い倫理・道徳観を備え、協調性をもち社会に貢献できる能力を有している。

【到達目標】

- ・常に変化する日常生活の中で心と身体を調える必要性を認識し、よりよく生きるための手段として坐禅を取り入れられる。
- ・坐禅を習慣づけことにより、実践的な禅について理解を深めることができる。
- ・坐禅の方法、心構え、心の置き様を実践で身に付け経験を重ねることにより坐禅指導者として企業団体研修等の場で活躍することができる。

【授業概要】

「禅とは知るものではない。聞くものでもなく、また見るものでもない。禅とは行ずるものである」といわれます。坐禅の実践により理屈や分別を離れ、どっぷりと禅の世界に浸っていただきたい。禅堂への出入りの仕方や歩き方などの作法も身に付けます。特に専門道場に掛搭する者には細かく指導します。

	授業計画・内容	学習成果（キーワード）
①	坐禅の心構えと準備	事前の体調管理
②	禅堂でのマナーと心得	合掌、低頭、叉手当胸
③	単への上がり方	修行の場
④	足の組み方	結跏趺坐、半跏趺坐
⑤	手の組み方	結び手
⑥	口と目の作法	口は軽く結び目は半眼
⑦	姿勢の調え方	揺振によって坐相を調える
⑧	息の調え方	長く深く腹式呼吸
⑨	心の調え方	数息観
⑩	警策の受け方	喝！
⑪	経行の仕方	歩く坐禅
⑫	坐禅の終わり方	ストレッチ
⑬	椅子坐禅の坐り方	さまざまな場所で坐禅
⑭	実践と法話	
⑮	実践と法話	
⑯	試験	

【授業外学修 予習・復習など】

授業前から身の回りを整理し体調を調べ、授業に臨んでください。

【単位の認定評価方法及び受講上の留意点】

授業に取り組む姿勢（70％）とレポートまたは筆記試験（30％）によって単位認定評価をします。7.5 コマ不足分は朝課、晩課、摂心晩課の参加により補います。

授業時数は5分の1以上の欠席で不合格。遅刻、早退は2回で1回の欠席とします。

【テキスト及び参考文献】

テキスト：

科目名	坐禅 I b / II b			担当教員名	青井有信・フォマルス アタレ	
開講基準 年次	授業期間 春・秋学期	開講曜日 時限目	単位数	授業区分 講義・演習・実習	授業コマ数	必修・選択
1・2	秋	木曜日・2	1	実習	22.5	必修

サブタイトル | よりよく生きるため日常生活に坐禅を取り入れてみましょう！

【D P (ディプロマポリシー)】

建学の精神（行学一体）を深く理解し、実践し続けるために豊かな人間性と高い倫理・道徳観を備え、協調性をもち社会に貢献できる能力を有している。

【到達目標】

- ・常に化する日常生活の中で心と身体を調える必要性を認識し、よりよく生きるための手段として坐禅を取り入れられる。
- ・坐禅を習慣づけことにより、実践的な禅について理解を深めることができる。
- ・坐禅の方法、心構え、心の置き様を実践で身に付け経験を重ねることにより坐禅指導者として企業団体研修等の場で活躍することができる。

【授業概要】

「禅とは知るものではない。聞くものでもなく、また見るものでもない。禅とは行ずるものである」といわれます。坐禅の実践により理屈や分別を離れ、どっぷりと禅の世界に浸っていただきたい。禅堂への出入りの仕方や歩き方などの作法も身に付けます。特に専門道場に掛搭する者には細かく指導します。

	授業計画・内容	学習成果（キーワード）
①	坐禅の心構えと準備	事前の体調管理
②	禅堂でのマナーと心得	合掌、低頭、叉手当胸
③	単への上がり方	修行の場
④	足の組み方	結跏趺坐、半跏趺坐
⑤	手の組み方	結び手
⑥	口と目の作法	口は軽く結び目は半眼
⑦	姿勢の調え方	揺振によって坐相を調える
⑧	息の調え方	長く深く腹式呼吸
⑨	心の調え方	数息観
⑩	警策の受け方	喝！
⑪	経行の仕方	歩く坐禅
⑫	坐禅の終わり方	ストレッチ
⑬	椅子坐禅の坐り方	さまざまな場所で坐禅
⑭	実践と法話	
⑮	実践と法話	
⑯	試験	

【授業外学修 予習・復習など】

授業前から身の回りを整理し体調を調べ、授業に臨んでください。

【単位の認定評価方法及び受講上の留意点】

授業に取り組む姿勢（70%）とレポートまたは筆記試験（30%）によって単位認定評価をします。7.5 コマ不足分は朝課、晩課、摂心晩課の参加により補います。

授業時数は5分の1以上の欠席で不合格。遅刻、早退は2回で1回の欠席とします。

【テキスト及び参考文献】

テキスト：

科目名		作務Ⅰa／Ⅱa		担当教員名	フォーマルス アタレ(風神覚静)	
開講基準 年次	授業期間 春・秋学期	開講曜日 時限目	単位数	授業区分 講義・演習・実習	授業コマ数	必修・選択
1	春	木曜日・1	1	実習	22.5	必修

サブタイトル	動く坐禅
--------	------

【DP(ディプロマポリシー)】

③建学の精神(学行一体)を深く理解し、実践し続けるために豊かな人間性と高い倫理・道徳観を備え、協調性をもち社会に貢献できる能力を有している。

【到達目標】

- ・個人に与えられた作務を最後までやり遂げることができる。
- ・作務を実行中、作務に成りきることができる。
- ・合同で作務を行っているときに他者と協調することが出来る。

【授業概要】

禅は行住坐臥全てが修行であると説く。日常の雑務や労働など全てを修行と考える。作務は、禅的生活の本質を持ち、坐禅止静で得たものを実生活の場に適応するものです。白隠禅師は「動中の工夫は静中の工夫に勝ること百千万倍す」との語を残され、体を動かしながら心はひたすらに禅の探求に向けなければならない。この授業では、行ずることで自己の内面に気づき活き活きと表現できることを目的とし学ぶものです。なお行事や天候等の都合により内容が変更することがあります。

	授業計画・内容	学習成果(キーワード)
①	講義(作務の意義・進めかた等の説明)	成りきり、三昧
②	学内清掃・外掃除	箒を大切にす
③	畑(園頭)作務、耕作、種まき	命を育てる
④	学内清掃・外掃除	三昧への道
⑤	剪定・外掃除	庭を整える
⑥	梅干し作り	自給自足
⑦	学内清掃・内掃除	雑巾に成りきる
⑧	畑(園頭)作務、耕作、水まき	除草に成りきる
⑨	箒作り	箒を使う人を思う
⑩	学内清掃・溝掃除	見えない所をきれいにする
⑪	畑(園頭)作務、耕作、水まき	鍬に成りきる
⑫	畑(園頭)作務、耕作、水まき	めんどろを厭わない
⑬	竹細工	竹の性質を知る
⑭	学内清掃・外掃除	水への感謝
⑮	学内清掃・内掃除	環境を整える
⑯	試験	

【授業外学修 予習・復習など】

授業前から身の回りを整理して体調を整え、授業に臨んでください。また、授業後に気がついた作務があれば、事前に提案してください。また、奉仕の心で行じて下さい。

【単位の認定評価方法及び受講上の留意点】

正眼夏期講座負担(7.5コマ分)に必ず参加すること。(欠席するとコマ数が足りなくなります。)授業へ取り組み姿勢(50%)と筆記試験(50%)によって単位を認定評価します。授業時数の5分の1の欠席で不合格。遅刻、早退は、2回で1回の欠席となります。

【テキスト及び参考文献】

テキスト:適時指示

参考文献:『雲水日記-絵で見る禅の修行生活』佐藤義英 禅文化研究所 廉価版 1620円

科目名		作務 I b / II b		担当教員名	フォーマルス アタレ(風神覚静)	
開講基準 年次	授業期間 春・秋学期	開講曜日 時限目	単位数	授業区分 講義・演習・実習	授業コマ数	必修・選択
1	秋	木曜日・1	1	実習	22.5	必修

サブタイトル	動く坐禅
--------	------

【DP(ディプロマポリシー)】

③建学の精神(学行一体)を深く理解し、実践し続けるために豊かな人間性と高い倫理・道徳観を備え、協調性を持ち社会に貢献できる能力を有している。

【到達目標】

- ・個人に与えられた作務を最後までやり遂げることができる。
- ・作務を実行中、作務に成りきることができる。
- ・合同で作務を行っているときに他者と協調することが出来る。

【授業概要】

禅は行住坐臥全てが修行であると説く。日常の雑務や労働など全てを修行と考える。作務は、禅的生活の本質を持ち、坐禅止静で得たものを実生活の場に適応するものです。白隠禅師は「動中の工夫は静中の工夫に勝ること百千万倍す」との語を残され、体を動かしながら心はひたすらに禅の探求に向けなければならない。この授業では、行ずることで自己の内面に気づき活き活きと表現できることを目的とし学ぶものです。なお行事や天候等の都合により内容が変更することがあります。

	授業計画・内容	学習成果(キーワード)
①	講義(作務の意義・進めかた等の説明)	成りきり、三昧
②	学内清掃・外掃除	箒を大切にす
③	畑(園頭)作務、耕作、種まき	命を育てる
④	学内清掃・外掃除	三昧への道
⑤	剪定・外掃除	庭を整える
⑥	わらじ作り	僧堂修行を支える
⑦	学内清掃・内掃除	雑巾に成りきる
⑧	畑(園頭)作務、耕作、水まき	除草に成りきる
⑨	箒作り	箒を使う人を思う
⑩	学内清掃・溝掃除	見えない所をきれいにする
⑪	畑(園頭)作務、耕作、水まき	鍬に成りきる
⑫	畑(園頭)作務、耕作、水まき	めんどろを厭わない
⑬	沢庵漬け	自給自足
⑭	学内清掃・外掃除	水への感謝
⑮	学内清掃・内掃除	環境を整える
⑯	試験	

【授業外学修 予習・復習など】

授業前から身の回りを整理して体調を整え、授業に臨んでください。また、授業後に気がついた作務があれば、事前に提案してください。また、奉仕の心で行じて下さい。

【単位の認定評価方法及び受講上の留意点】

正眼寺開山忌荷担(7.5コマ分)に必ず参加すること。(欠席するとコマ数が足りなくなります。)授業へ取り組む姿勢(50%)と筆記試験(50%)によって単位を認定評価します。授業時数の5分の1の欠席で不合格。遅刻、早退は、2回で1回の欠席となります。

【テキスト及び参考文献】

テキスト: 適時指示

参考文献: 『雲水日記-絵で見る禅の修行生活』佐藤義英 禅文化研究所 廉価版 1620円

科目名	仏教ボランティア I a			担当教員名	教務部	
開講基準 年次	授業期間 春・秋学期	開講曜日 時限目	単位数	授業区分 講義・演習・実習	授業コマ数	必修・選択
1・2	春	木曜日・3, 4	1	実習	22.5	必修

サブタイトル	介護初任者研修
--------	---------

【DP(ディプロマポリシー)】

③建学の精神(学行一体)を深く理解し、実践し続けるために豊かな人間性と高い倫理・道徳観を備え、協調性を持ち社会に貢献できる能力を有している。

【到達目標】

- ・障害者や高齢者の心理を理解する。
- ・介護等に関する基本的な知識を習得する。
- ・基本介護技術を習得する。

【授業概要】

この授業は、介護の専門職に就く上で必要な介護初任者研修の資格を取得することを目的とする。介護職は、これからも必要とされ、需要も多くなる職種である。また、この授業では、家庭での介護にも役立つ知識と技能を身につける。

なお、1回の授業で2～4コマ実施し、また、施設の都合により、若干の変更あり。

授業計画・内容	
①	4/14 講義・多様なサービスの理解
②	4/21 講義・介護職の仕事内容や働く現場の理解
③	4/28 講義・人権と尊厳を支える介護
④	5/12 講義・介護職の役割、専門性と多様種との連携
⑤	5/19 講義・自立に向けた介護
⑥	5/26 講義・人権と尊厳を支える介護
⑦	6/2 講義・介護における安全の確保とリスクマネジメント
⑧	6/9 講義・介護保険制度
⑨	6/16 講義・医療との連携とリハビリテーション
⑩	6/23 講義・障害者自立支援制度およびその他制度
⑪	6/30 講義・介護におけるコミュニケーション
⑫	7/7 講義・介護に関するからだのしくみの基礎的理解
⑬	7/14 講義・介護におけるチームのコミュニケーション
⑭	7/21 講義・認知症を取り巻く状況
⑮	7/28 講義・認知症に伴うこころとからだの変化と日常生活
⑯	8/4 講義・介護に関するからだのしくみの基礎的理解
⑰	9/6 講義・介護の基本的な考え方
⑱	9/8 講義・介護に関するこころのしくみの基礎的理解
⑲	9/9 演習・生活と家事
⑳	9/12 演習・快適な居住環境整備と介護
㉑	9/15 演習・移動・移乗に関連したこころとからだのしくみと自立に向けた介護

【授業外学修 予習・復習など】

本時の内容について予習し、授業後に復習しておくこと。

【単位の認定評価方法及び受講上の留意点】

専門学校での通年講座(130時間)を履修し、全出席することにより単位を認可する。その内容は、講義91時間、演習36時間、実習3時間である。1時間でも欠席した場合は、資格の取得が不可能となり、単位は認定されない。評価は、秋学期に実施の筆記試験で行う。

【テキスト及び参考文献】

テキスト：介護職員初任者研修テキスト

科目名	仏教ボランティア I b			担当教員名	教務部	
開講基準 年次	授業期間 春・秋学期	開講曜日 時限目	単位数	授業区分 講義・演習・実習	授業コマ数	必修・選択
1・2	秋	木曜日・3, 4	1	実習	22.5	必修

サブタイトル	介護初任者研修
--------	---------

【D P (ディプロマポリシー)】

③建学の精神（行学一体）を深く理解し、実践し続けるために豊かな人間性と高い倫理・道徳観を備え、協調性を持ち社会に貢献できる能力を有している。

【到達目標】

- ・ 障害者や高齢者の心理を理解する。
- ・ 介護等に関する基本的な知識を習得する。
- ・ 基本介護技術を習得する。

【授業概要】

この授業は、介護の専門職に就く上で必要な介護初任者研修の資格を取得することを目的とする。介護職は、これからも必要とされ、需要も多くなる職種である。また、この授業では、家庭での介護にも役立つ知識と技能を身につける。

なお、1回の授業で2～4コマ実施し、また、施設の都合により、若干の変更あり。

	授業計画・内容
①	9/29 演習・移動・移乗に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護
②	10/6 演習・整容に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護
③	10/13 演習・整容に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護
④	10/27 演習・食事に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護
⑤	11/10 演習・入浴、清潔保持に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護
⑥	11/17 演習・入浴、清潔保持に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護
⑦	11/24 演習・排泄に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護
⑧	12/1 演習・排泄に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護
⑨	12/8 講義・睡眠に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護
⑩	12/15 講義・介護過程の基礎的理解
⑪	12/22 演習・総合生活支援技術演習
⑫	1/12 演習・総合生活支援技術演習
⑬	1/19 実習・振り返り
⑭	1/26 筆記試験
⑮	
⑯	

【授業外学修 予習・復習など】

本時の内容について予習し、授業後に復習しておくこと。

【単位の認定評価方法及び受講上の留意点】

専門学校での通年講座（130時間）を履修し、全出席することにより単位を認可する。その内容は、講義91時間、演習36時間、実習3時間である。1時間でも欠席した場合は、資格の取得が不可能となり、単位は認定されない。評価は、秋学期に実施の筆記試験で行う。

【テキスト及び参考文献】

テキスト：介護職員初任者研修テキスト

科目名	仏教ボランティアⅡa			担当教員名	羽場 寛	
開講基準 年次	授業期間 春・秋学期	開講曜日 時限目	単位数	授業区分 講義・演習・実習	授業コマ数	必修・選択
1・2	春	木曜日・3,4	2	実習	22.5	必修

サブタイトル	手を差し伸べる
--------	---------

【DP(ディプロマポリシー)】

③建学の精神(行学一体)を深く理解し、実践し続けるために豊かな人間性と高い倫理・道徳観を備え、協調性をもち社会に貢献できる能力を有している。

【到達目標】

- ・助けを求める多くの人、団体と出会い"手助け"の重要性を学ぶことができる。
- ・社会の発展を支える主要な担い手になることができる。
- ・困っている人に"手を差し伸べる事が出来る一人の人間になることができる。

【授業概要】

ボランティア活動の授業を通じて単なる奉仕活動ではなく地域と連携した実践活動を行い、チームワークの大切さに加え自己を発見し、社会に貢献できる人間形成を目指す。仏教学で学ぶ慈悲の精神、利他心を共に学び、地域とより強く結びつく場としたい。

授業であるが故に自発性にやや欠けるところがあるが、共に支援し合いながら「ボランティアは楽しい」と実感を持ってもらう。

	授業計画・内容	学習成果(キーワード)
①	講義・・・ボランティアについて…論理、概況、実践紹介	ボランティア活動の趣旨に気がつく
②	実践・・・地域のクリーン活動	社会貢献を体験する
③	実践・・・施設訪問(ひまわりの丘)訪問	ふれあいの大切さを実感する
④	実践・・・施設訪問(ひまわりの丘)訪問	ふれあいの大切さを実感する
⑤	実践・・・施設訪問(ひまわりの丘)訪問	ふれあいの大切さを実感する
⑥	実践・・・施設訪問(ひまわりの丘)訪問	ふれあいの大切さを実感する
⑦	講義・・・施設訪問を体験しての感想、注意点など	活動を通じての意見交換
⑧	実践・・・保育園プール掃除	汗を流し、園児とふれあう
⑨	実践・・・次週七夕会の打ち合わせ、準備	盛り上げるための工夫
⑩	実践・・・ブラジルの子供交流、七夕会	ふれあいの大切さを実感する
⑪	実践・・・施設訪問(ひまわりの丘)訪問	ふれあいの大切さを実感する
外	実践・・・地域イベント(富加町)支援活動	地域の方達と一体に成る
※	1コマは2時限です	

【授業外学修 予習・復習など】

実践のあと実習小レポートを書いて反省点、良かった事などを述べ次回の活動に活かす。

【単位の認定評価方法及び受講上の留意点】

授業への取り組み(協力性、積極性、工夫性など)80%、実習レポート10%、試験10%

【テキスト及び参考文献】

テキスト：必要な時に資料コピーを配布する。

参考文献：適宜照会します。

科目名	仏教ボランティアⅡb			担当教員名	羽場 寛	
開講基準 年次	授業期間 春・秋学期	開講曜日 時限目	単位数	授業区分 講義・演習・実習	授業コマ数	必修・選択
1・2	秋	木曜日・3,4	2	実習	22.5	必修

サブタイトル	手を差し伸べる
--------	---------

【DP(ディプロマポリシー)】

③建学の精神(行学一体)を深く理解し、実践し続けるために豊かな人間性と高い倫理・道徳観を備え、協調性を持ち社会に貢献できる能力を有している。

【到達目標】

- ・助けを求める多くの人、団体と出会い"手助け"の重要性を学ぶことができる。
- ・社会の発展を支える主要な担い手になることができる。
- ・困っている人に"手を差し伸べる事"が出来る一人の人間になることができる。

【授業概要】

ボランティア活動の授業を通じて単なる奉仕活動ではなく地域と連携した実践活動を行い、チームワークの大切さに加え自己を発見し、社会に貢献できる人間形成を目指す。仏教学で学ぶ慈悲の精神、利他心を共に学び、地域とより強く結びつく場としたい。

授業であるが故に自発性にやや欠けるところがあるが、共に支援し合いながら「ボランティアは楽しい」と実感を持ってもらう。

	授業計画・内容	学習成果(キーワード)
①	講義・・・ボランティアについて…論理、概況、実践紹介	ボランティア活動の趣旨に気がつく
②	実践・・・保育園の清掃	社会貢献を体験する
③	実践・・・窯焚き応援	チームワークの大切さの実感
④	実践・・・施設訪問(ひまわりの丘)訪問	ふれあいの大切さを実感する
外	実践・・・地域イベント	地域の方達と一体に成る
⑤	実践・・・地域のクリーン活動	社会貢献を体験する
⑥	実践・・・次回クリスマス会の打ち合わせ、準備	盛り上げるための工夫
⑦	実践・・・ブラジルの子供交流、クリスマス会	ふれあいの大切さを実感する
⑧	実践・・・施設訪問(ひまわりの丘)訪問	ふれあいの大切さを実感する
⑨	実践・・・施設訪問(ひまわりの丘)訪問	ふれあいの大切さを実感する
⑩	実践・・・施設訪問(ひまわりの丘)訪問	ふれあいの大切さを実感する
⑪	実践・・・施設訪問(ひまわりの丘)訪問	ふれあいの大切さを実感する
※	1コマは2時限です	

【授業外学修 予習・復習など】

実践のあと実習小レポートを書いて反省点、良かった事などを述べ次回の活動に活かす。

【単位の認定評価方法及び受講上の留意点】

授業への取り組み(協力性、積極性、工夫性など)80%、実習レポート10%、試験10%

【テキスト及び参考文献】

テキスト：必要な時に資料コピーを配布する。

参考文献：適宜照会します。

科目名		仏教学 a		担当教員名		村 瀬 正 光	
開講基準 年次	授業期間 春・秋学期	開講曜日 時限目	単位数	授業区分 講義・演習・実習	授業コマ数	必修・選択	
2	春	月曜日・2	2	演習	15	選択	

サブタイトル	まごころの詩
--------	--------

【DP(ディプロマポリシー)】

②宗教・仏教・禅・歴史・文化についての豊かな素養を踏まえつつ、対象を正確に理解し、表現することで、他者との相互理解に努め、組織の中で創造的に活動していくことができる。

【到達目標】

- ・漢文で書かれた祖録の読み方を習得し、その内容を理解し説明することができる。
- ・仏教や禅の思想(さとりととは何か)を理解し、その特徴を説明することができる。

【授業概要】

本演習では禅宗四部録のうち三祖僧璨(?~606)著であろうと呼ばれる『信心銘』を取り上げる。「仏性」(本心・仏心)を徹見して「仏陀」(覚者)になることを説く『信心銘』の思想を学び、仏教や禅宗の根本思想・教義の理解と関心を深め、その内容を説明できる能力を身につけることを目的として取り組む。授業の進度は、学生の習熟度により若干の変更あり。

	授業計画・内容	学習成果(キーワード)
①	はじめに 『信心銘』とは 至道無難・・・	道、謙謙、憎愛、
②	毫釐有差・・・	天地、順逆、
③	違順相争・・・	玄旨、
④	円同太虚・・・	太虚、取捨、
⑤	莫逐有縁・・・	縁、空、
⑥	心動歸止・・・	両辺、一種、
⑦	一種不通・・・	一種、
⑧	多言多慮・・・	多言多慮、絶言絶慮、
⑨	歸根得旨・・・	随照、返照、
⑩	前空転変・・・	妄見、真、
⑪	二見不住・・・	二見、是非、
⑫	二由一有・・・	一心、不生、万法、
⑬	無咎無法・・・	能、境、
⑭	境由能境・・・	両段、一空、
⑮	一空同両・・・	万象、
⑯	定期試験	

【授業外学修 予習・復習など】

この授業の履修にあたり、学習成果(キーワード)の予習(読み方、意味等を調べる)を行い、授業後には講義の内容を確認して下さい。質問等は授業中、またはオフィスアワーで受け付けます。

【単位の認定評価方法及び受講上の留意点】

評価は、定期試験(筆記試験 持ち込み不可 90%)、授業への取り組み(10%)により評価を行う。なお、授業時数の5分の1以上欠席(遅刻・早退は2回で1回の欠席)すると失格。

【テキスト及び参考文献】

テキスト:「禅宗四部録」の『証道歌』配布致します。
参考文献:禅の語録16『信心銘・証道歌・十牛図・坐禅儀』筑摩書房
※その他、必要な文献については、講義中に適宜紹介する。

科目名		仏教学b		担当教員名		村瀬正光	
開講基準 年次	授業期間 春・秋学期	開講曜日 時限目	単位数	授業区分 講義・演習・実習	授業コマ数	必修・選択	
2	秋	月曜日・2	2	演習	15	選択	

サブタイトル	まごころの詩
--------	--------

【DP(ディプロマポリシー)】

②宗教・仏教・禅・歴史・文化についての豊かな素養を踏まえつつ、対象を正確に理解し、表現することで、他者との相互理解に努め、組織の中で創造的に活動していくことができる。

【到達目標】

- ・漢文で書かれた祖録の読み方を習得し、その内容を理解し説明することができる。
- ・仏教や禅の思想(さとりととは何か)を理解し、その特徴を説明することができる。

【授業概要】

本演習では禅宗四部録のうち三祖僧璨(?~606)著であろうと呼ばれる『信心銘』を取り上げる。「仏性」(本心・仏心)を徹見して「仏陀」(覚者)になることを説く『信心銘』の思想を学び、仏教や禅宗の根本思想・教義の理解と関心を深め、その内容を説明できる能力を身につけることを目的として取り組む。授業の進度は、学生の習熟度により若干の変更あり。

	授業計画・内容	学習成果(キーワード)
①	はじめに 『信心銘』とは 至道無難・・・	道、謙謙、憎愛、
②	大道体寛・・・	大道、小見、
③	執之失度・・・	自然、去、住、
④	任性合道・・・	道、逍遙、真、
⑤	不好勞神・・・	一乗、六塵、
⑥	六塵不悪・・・	正覚、無為、
⑦	法無異法・・・	法、心、
⑧	迷生寂乱・・・	迷、悟、二辺、
⑨	夢幻虚華・・・	夢、幻、
⑩	眼若不睡・・・	万法、一如、
⑪	一如体玄・・・	縁、
⑫	泯其所以・・・	止動、動止、
⑬	両既不成・・・	究竟、軌則、
⑭	契心平等・・・	平等、正信、調直、
⑮	一切不留・・・	思量、
⑯	定期試験	

【授業外学修 予習・復習など】

この授業の履修にあたり、学習成果(キーワード)の予習(読み方、意味等を調べる)を行い、授業後には講義の内容を確認して下さい。質問等は授業中、またはオフィスアワーで受け付けます。

【単位の認定評価方法及び受講上の留意点】

評価は、定期試験(筆記試験 持ち込み不可 90%)、授業への取り組み(10%)により評価を行う。
なお、授業時数の5分の1以上欠席(遅刻・早退は2回で1回の欠席)すると失格。

【テキスト及び参考文献】

テキスト：「禅宗四部録」の『証道歌』配布致します。
参考文献：禅の語録 16『信心銘・証道歌・十牛図・坐禅儀』筑摩書房
※その他、必要な文献については、講義中に適宜紹介する。

科目名		禅学 a		担当教員名		村 瀬 正 光	
開講基準 年次	授業期間 春・秋学期	開講曜日 時限目	単位数	授業区分 講義・演習・実習	授業コマ数	必修・選択	
2	春	火曜日・2	2	演習	15	選択	

サブタイトル	さとの歌
--------	------

【DP(ディプロマポリシー)】

②宗教・仏教・禅・歴史・文化についての豊かな素養を踏まえつつ、対象を正確に理解し、表現することで、他者との相互理解に努め、組織の中で創造的に活動していくことができる。

【到達目標】

- ・漢文で書かれた祖録の読み方を習得し、その内容を理解し説明することができる。
- ・仏教や禅の思想(さとりとは何か)を理解し、その特徴を説明することができる。

【授業概要】

本演習では禅宗四部録のうち永嘉玄覺(675~713)著であろうと呼ばれる『証道歌』を取り上げる。『証道歌』に歌い上げる「南宗頓悟禅」の思想を学び、仏教や禅宗の根本思想・教義の理解と関心を深め、その内容を説明できる能力を身につけることを目的として取り組む。授業の進度は、学生の習熟度により若干の変更あり。

	授業計画・内容	学習成果(キーワード)
①	はじめに 『証道歌』とは	
②	絶学無為閑道人・・・	絶学、無為、仏性、
③	法身覺了無一物・・・	無一物、五陰、三毒、
④	証実相 無人法・・・	実相、阿鼻、業、
⑤	頓覺了 如来禅・・・	如来禅、六度、六趣、
⑥	無罪福 無損益・・・	寂滅、塵鏡、
⑦	誰無念 誰無性・・・	無念、無生、不生、
⑧	法四大 莫把捉・・・	四大、諸行無常、空、大圓覺、
⑨	決定説 表真僧・・・	決定、印、
⑩	摩尼珠 人不識・・・	摩尼珠、如来藏、六般
⑪	浄五眼 得五力・・・	五眼、五力
⑫	常独行 常独歩・・・	達者、涅槃、
⑬	窮釋子 口称貧・・・	釋子、無價珍、
⑭	無價珍 用無尽・・・	三身、四智、八解、
⑮	上士一決一切了・・・	多聞、精進、
⑯	定期試験	

【授業外学修 予習・復習など】

この授業の履修にあたり、学習成果(キーワード)の予習(読み方、意味等を調べる)を行い、授業後には講義の内容を確認して下さい。質問等は授業中、またはオフィスアワーで受け付けます。

【単位の認定評価方法及び受講上の留意点】

評価は、定期試験(筆記試験 持ち込み不可 90%)、授業への取り組み(10%)により評価を行う。
なお、授業時数の5分の1以上欠席(遅刻・早退は2回で1回の欠席)すると失格。

【テキスト及び参考文献】

テキスト:「禅宗四部録」の『証道歌』配布致します。
参考文献:禅の語録 16『信心銘・証道歌・十牛図・坐禅儀』筑摩書房
※その他、必要な文献については、講義中に適宜紹介する。

科目名	禅学b			担当教員名	村瀬正光	
開講基準 年次	授業期間 春・秋学期	開講曜日 時限目	単位数	授業区分 講義・演習・実習	授業コマ数	必修・選択
2	秋	火曜日・2	2	演習	15	選択

サブタイトル さとりの歌

【DP(ディプロマポリシー)】

②宗教・仏教・禅・歴史・文化についての豊かな素養を踏まえつつ、対象を正確に理解し、表現することで、他者との相互理解に努め、組織の中で創造的に活動していくことができる。

【到達目標】

- ・漢文で書かれた祖録の読み方を習得し、その内容を理解し説明することができる。
- ・仏教や禅の思想(さとりととは何か)を理解し、その特徴を説明することができる。

【授業概要】

本演習では禅宗四部録のうち永嘉玄覺(675~713)著であろうと呼ばれる『証道歌』を取り上げる。『証道歌』に歌い上げる「南宗頓悟禅」の思想を学び、仏教や禅宗の根本思想・教義の理解と関心を深め、その内容を説明できる能力を身につけることを目的として取り組む。授業の進度は、学生の習熟度により若干の変更あり。

	授業計画・内容	学習成果(キーワード)
①	はじめに 『証道歌』とは・・・	
②	従他謗 任他非・・・	甘露、不思議、
③	観悪言 是功德・・・	功德、善知識、怨親、
④	宗亦通 説亦通・・・	戒、定、慧、
⑤	獅子吼 無畏説・・・	獅子吼、
⑥	遊江海 涉山川・・・	参禅、曹溪、生死、
⑦	行亦禅 坐亦禅・・・	語、黙、動、静、忍辱、
⑧	幾回生 幾回死・・・	定止、
⑨	入深山 住蘭若・・・	蘭若、長松下、野僧、
⑩	覚即了 不施功・・・	有為、法、布施、
⑪	勢力尽 箭還墜・・・	無為、実相、如来、
⑫	但得本 莫愁末・・・	如意珠、自利、利他、
⑬	江月照 松風吹・・・	心地、
⑭	降龍鉢 解虎錫・・・	鉢、錫、
⑮	不求真 不断妄・・・	真、妄、空、無相、
⑯	定期試験	

【授業外学修 予習・復習など】

この授業の履修にあたり、学習成果(キーワード)の予習(読み方、意味等を調べる)を行い、授業後には講義の内容を確認して下さい。質問等は授業中、またはオフィスアワーで受け付けます。

【単位の認定評価方法及び受講上の留意点】

評価は、定期試験(筆記試験 持ち込み不可 90%)、授業への取り組み(10%)により評価を行う。
なお、授業時数の5分の1以上欠席(遅刻・早退は2回で1回の欠席)すると失格。

【テキスト及び参考文献】

テキスト:「禅宗四部録」の『証道歌』配布致します。
参考文献:禅の語録16『信心銘・証道歌・十牛図・坐禅儀』筑摩書房
※その他、必要な文献については、講義中に適宜紹介する。

科目名		仏教史 a		担当教員名		池田 丈 明	
開講基準 年次	授業期間 春・秋学期	開講曜日 時限目	単位数	授業区分 講義・演習・実習	授業コマ数	必修・選択	
1・2	春	火曜日・2	2	演習	15	選択	

サブタイトル	いわゆる兼修禅再考
--------	-----------

【DP(ディプロマポリシー)】

②宗教・仏教・禅・歴史・文化についての豊かな素養を踏まえつつ、対象を正確に理解し、表現することで、他者との相互理解に努め、組織の中で創造的に活動していくことができる。

【到達目標】

- ・自ら問題を発見できる。
- ・文献解読により問題解決できる。
- ・議論の仕方を身につけることができる。

【授業概要】

鎌倉中期成立の仏教説話、無住一円編纂『沙石集』を輪読します。担当者はその内容要約を行うとともに問題を提起し、報告内容について全員で議論します。

『沙石集』は説話のおもしろさに比して、その思想の評価は「純粹禅」に移行する過渡期の「兼修禅」であり、不徹底なものであると目されてきました。しかし今日「兼修禅」に対する一面的な評価は次第に修正されつつあるので、本演習ではその思想にまで踏み込んで読解することで「兼修禅」ひいては仏教史を考察します。

	授業計画・内容	学習成果(キーワード)
①	はじめに	無住一円
②	『沙石集』巻第一 「神祇」	本地垂迹説、因果の道理
③	『沙石集』巻第二ノ一 仏舎利感得の事	仏舎利、「舎利礼文」
④	『沙石集』巻第二ノ二 薬師の利益の事	薬師如来、安達泰盛
⑤	『沙石集』巻第二ノ三 弥陀の利益の事	阿弥陀如来、二世の利益
⑥	『沙石集』巻第二ノ四 薬師・観音の利益によりて命を全くする事	承久の乱、竜泉寺
⑦	『沙石集』巻第二ノ五 地藏利益の事	地藏菩薩、地獄の獄卒
⑧	『沙石集』巻第二ノ六 不動を念じて魔障を払ひたる事	不動明王、陀羅尼、今生の名利
⑨	『沙石集』巻第二ノ七 弥勒の行者の事	弥勒菩薩、真言
⑩	『沙石集』巻第二ノ八 仏法の結縁空しからざる事	顕密諸宗、結縁の得益
⑪	『沙石集』巻第三ノ三 訴訟人の恩を蒙る事	北条泰時、地頭
⑫	『沙石集』巻第三ノ七 律師の、言は是にして行は非なる事	律、『梵網経』
⑬	『沙石集』巻第四ノ七 道に入りては執著を棄つべき事	執着、明恵
⑭	『沙石集』巻第五ノ三 学生の畜類に生れたる事	学生、来世の転生先
⑮	まとめ	
⑯	定期試験	

【授業外学修 予習・復習など】

受講者は、必ず学習成果(キーワード)を事前に調べたうえで、授業に臨んでください。また、議論の後に生じた疑問・質問は、オフィスアワーの時間に聞いてください。

【単位の認定評価方法及び受講上の留意点】

定期試験(筆記試験40%程度)と報告内容(30%)、議論への参加(30%)で成績を評価します。なお、授業時数の5分の1以上欠席すると、筆記試験の受験資格がなくなりますので注意してください。

【テキスト及び参考文献】

『沙石集』(『新編日本古典文学全集』52、小学館、2001年)。
同書は市立米沢図書館蔵本(興譲館旧蔵)を定本としたものです。

科目名		仏教史b		担当教員名		池田 丈 明	
開講基準 年次	授業期間 春・秋学期	開講曜日 時限目	単位数	授業区分 講義・演習・実習	授業コマ数	必修・選択	
1・2	秋	火曜日・2	2	演習	15	選択	

サブタイトル	いわゆる兼修禅再考
--------	-----------

【DP(ディプロマポリシー)】

②宗教・仏教・禅・歴史・文化についての豊かな素養を踏まえつつ、対象を正確に理解し、表現することで、他者との相互理解に努め、組織の中で創造的に活動していくことができる。

【到達目標】

- ・自ら問題を発見できる。
- ・文献解読により問題解決できる。
- ・議論の仕方を身につけることができる。

【授業概要】

鎌倉中期成立の仏教説話、無住一円編纂『沙石集』を輪読します。担当者はその内容要約を行うとともに問題を提起し、報告内容について全員で議論します。

『沙石集』は説話のおもしろさに比して、その思想の評価は「純粹禅」に移行する過渡期の「兼修禅」であり、不徹底なものであると目されてきました。しかし今日「兼修禅」に対する一面的な評価は次第に修正されつつあるので、本演習ではその思想にまで踏み込んで読解することで「兼修禅」ひいては仏教史を考察します。

	授業計画・内容	学習成果(キーワード)
①	はじめに	長母寺
②	『沙石集』巻第五本ノ六 学生の魔道に墮ちたる事	興福寺、春日大社
③	『沙石集』巻第六ノ六 「説戒に悪口して利益せる事」	釈円房栄朝、戒・定・恵
④	『沙石集』巻第六ノ十三 「袈裟の徳の事」	袈裟、懺悔
⑤	『沙石集』巻第七ノ一 「正直の女人の事」	裕福、現世での徳分
⑥	『沙石集』巻第八ノ三 愚痴の僧文字知らざる事	『大般若経』、『法華経』
⑦	『沙石集』巻第八ノ五 死の道知らざる人の事	後世安穩の行い、無常の理
⑧	『沙石集』巻第九ノ七 人を殺して報ひたる事	不殺生戒、因果は必ず違はぬ
⑨	『沙石集』巻第九ノ二十四 真言の功能の事	陀羅尼、靈験
⑩	『沙石集』巻第九ノ二十五 先世坊の事	前世、業因縁の報ひ
⑪	『沙石集』巻第十本ノ七 悪を縁として発心したる事	善智識、後世菩提
⑫	『沙石集』巻第十末ノ十三 建仁寺の門徒の中に臨終目出き事	葉上房明庵栄西、源信
⑬	『沙石集』巻第十末ノ十三 蘭溪の事	蘭溪道隆、北条時宗
⑭	『沙石集』巻第十末ノ十三 聖一和尚の事	円爾、東福寺
⑮	まとめ	
⑯	定期試験	

【授業外学修 予習・復習など】

受講者は、必ず学習成果(キーワード)を事前に調べたうえで、授業に臨んでください。また、議論の後に生じた疑問・質問は、オフィスアワーの時間に聞いてください。

【単位の認定評価方法及び受講上の留意点】

定期試験(筆記試験40%程度)と報告内容(30%)、議論への参加(30%)で成績を評価します。なお、授業時数の5分の1以上欠席すると、筆記試験の受験資格がなくなりますので注意してください。

【テキスト及び参考文献】

『沙石集』(『新編日本古典文学全集』52、小学館、2001年)。
同書は市立米沢図書館蔵本(興譲館旧蔵)を定本としたものです。

科目名	禅宗史 a			担当教員名	池田 丈 明	
開講基準 年次	授業期間 春・秋学期	開講曜日 時限目	単位数	授業区分 講義・演習・実習	授業コマ数	必修・選択
1・2	春	火曜日・3	2	演習	15	選択

サブタイトル 一休宗純と中世後期社会

【DP(ディプロマポリシー)】

②宗教・仏教・禅・歴史・文化についての豊かな素養を踏まえつつ、対象を正確に理解し、表現することで、他者との相互理解に努め、組織の中で創造的に活動していくことができる。

【到達目標】

- ・自ら問題を発見できる。
- ・文献解読により問題解決できる。
- ・議論の仕方を身につけることができる。

【授業概要】

禅宗史を考えていくために、室町期を生きた禅僧一休宗純に注目し、その履歴を弟子たちが年代順に編纂した『東海一休和尚年譜』を輪読します。担当者はその内容要約を行うとともに問題を提起し、報告内容について全員で議論します。

本演習は、黒田俊雄氏提唱の「顕密体制論」以降、課題として残されている中世仏教のあり方、とくに禅と顕密の関係を考察することにも、きつとつながっていくはずで。

	授業計画・内容	学習成果(キーワード)
①	はじめに	一休宗純
②	『東海一休和尚年譜』 応永元年条～	後小松天皇、足利義満、「公武統一政権」
③	『東海一休和尚年譜』 応永十二年条～	象外集鑑、清叟仁蔵主、慕喆竜攀
④	『東海一休和尚年譜』 応永十七年条～	謙翁宗為、西金寺、足利義持
⑤	『東海一休和尚年譜』 応永十九年条～	石山寺、徹翁派、無因宗因
⑥	『東海一休和尚年譜』 応永二十二年条～	華叟宗曇、近江堅田禅興庵
⑦	『東海一休和尚年譜』 応永二十三年条～	養叟宗頤、上杉禅秀の乱、足利義嗣
⑧	『東海一休和尚年譜』 応永二十五年条～	『平家物語』、祇王、「洞山三頓棒」
⑨	『東海一休和尚年譜』 応永二十七年条～	印信許可、班女、世阿弥
⑩	『東海一休和尚年譜』 応永二十九年条～	言外宗忠、日照宗光
⑪	『東海一休和尚年譜』 応永三十年条～	応永の飢饉、「気候変動論」
⑫	『東海一休和尚年譜』 応永三十四年条～	後小松天皇、称光天皇
⑬	『東海一休和尚年譜』 正長元年条～	後花園天皇、足利義教、正長の土一揆
⑭	『東海一休和尚年譜』 永享四年条～	南江宗沅、集雲庵
⑮	まとめ	徳政
⑯	定期試験	

【授業外学修 予習・復習など】

受講者は、必ず学習成果(キーワード)を事前に調べたうえで、授業に臨んでください。また、議論の後に生じた疑問・質問は、オフィスアワーの時間に聞いてください。

【単位の認定評価方法及び受講上の留意点】

定期試験(筆記試験40%程度)と報告内容(30%)、議論への参加(30%)で成績を評価します。なお、授業時数の5分の1以上欠席すると、筆記試験の受験資格がなくなりますので注意してください。

【テキスト及び参考文献】

『東海一休和尚年譜』(平野宗浄「一休和尚年譜の研究」(『禅文化研究所紀要』七、1975年))。同書は真珠庵蔵本(真珠庵二十四世南山宗寿直筆写本)を定本としたものです。

科目名		禅宗史b		担当教員名		池田 丈 明	
開講基準 年次	授業期間 春・秋学期	開講曜日 時限目	単位数	授業区分 講義・演習・実習	授業コマ数	必修・選択	
1・2	秋	火曜日・3	2	演習	15	選択	

サブタイトル 一休宗純と中世後期社会

【DP(ディプロマポリシー)】

②宗教・仏教・禅・歴史・文化についての豊かな素養を踏まえつつ、対象を正確に理解し、表現することで、他者との相互理解に努め、組織の中で創造的に活動していくことができる。

【到達目標】

- ・自ら問題を発見できる。
- ・文献解読により問題解決できる。
- ・議論の仕方を身につけることができる。

【授業概要】

禅宗史を考えていくために、室町期を生きた禅僧一休宗純に注目し、その履歴を弟子たちが年代順に編纂した『東海一休和尚年譜』を輪読します。担当者はその内容要約を行うとともに問題を提起し、報告内容について全員で議論します。

本演習は、黒田俊雄氏提唱の「顕密体制論」以降、課題として残されている中世仏教のあり方、とくに禅と顕密の関係を考察することにも、きつとつながっていくはずで。

	授業計画・内容	学習成果(キーワード)
①	はじめに	室町期
②	『東海一休和尚年譜』永享八年条～	宗峰妙超、永享の乱
③	『東海一休和尚年譜』嘉吉元年条～	讓羽山、嘉吉の乱、赤松満祐
④	『東海一休和尚年譜』文安元年条～	関山慧玄、日峰宗暉
⑤	『東海一休和尚年譜』文安四年条～	後花園天皇、自殺
⑥	『東海一休和尚年譜』宝徳三年条～	蜷川新左衛門親當、徹翁義亨
⑦	『東海一休和尚年譜』享徳三年条～	薪村妙勝寺、南浦紹明
⑧	『東海一休和尚年譜』長禄元年条～	細川勝元、義天玄承
⑨	『東海一休和尚年譜』長禄三年条～	酬恩庵、没倫紹等
⑩	『東海一休和尚年譜』寛正元年条～	寛正の飢饉、足利義政
⑪	『東海一休和尚年譜』寛正二年条～	五山の施餓鬼、春浦宗熙
⑫	『東海一休和尚年譜』応仁元年条～	応仁の乱、後土御門天皇、多福庵禅竹
⑬	『東海一休和尚年譜』文明六年条～	足利義尚、森女、『宗鏡録』
⑭	『東海一休和尚年譜』文明十年条～	『狂雲集』、瘡
⑮	まとめ	「会裡の徒に示す法語」
⑯	定期試験	

【授業外学修 予習・復習など】

受講者は、必ず学習成果(キーワード)を事前に調べたうえで、授業に臨んでください。また、議論の後に生じた疑問・質問は、オフィスアワーの時間に聞いてください。

【単位の認定評価方法及び受講上の留意点】

定期試験(筆記試験40%程度)と報告内容(30%)、議論への参加(30%)で成績を評価します。なお、授業時数の5分の1以上欠席すると、筆記試験の受験資格がなくなりますので注意してください。

【テキスト及び参考文献】

『東海一休和尚年譜』(平野宗浄「一休和尚年譜の研究」(『禅文化研究所紀要』七、1975年))。同書は真珠庵蔵本(真珠庵二十四世南山宗寿直筆写本)を定本としたものです。

科目名	日本文化 a			担当教員名	鈴木重喜	
開講基準 年次	授業期間 春・秋学期	開講曜日 時限目	単位数	授業区分 講義・演習・実習	授業コマ数	必修・選択
2	春	金曜日・3	2	講義	15	選択

サブタイトル	元禄時代の武士の生活からみる江戸文化
--------	--------------------

【DP(ディプロマポリシー)】

②宗教・仏教・禅・歴史・文化についての豊かな素養を踏まえつつ、対象を正確に理解し、表現することで、他者との相互理解に努め、組織の中で創造的に活動していくことができる。

【到達目標】

- ・古文を読むことができる。
- ・古文を解釈することができる。
- ・江戸時代の社会や文化についての認識や理解を深めることができる。

【授業概要】

本授業では、朝日文左衛門重章の日記『鸚鵡籠中記』を講読します。重章は、尾張藩城代組の100石取りの武士で、貞享元年(1684)から享保2年(1717)まで34年間に渡る日記筆録を残しています。この講読を通して、現代人の生活文化の起点である元禄時代を考えます。

	授業計画・内容	学習成果(キーワード)
①	江戸時代の文章を読む①	数詞、干支、貨幣、度量衡
②	江戸時代の文章を読む②	助動詞、動詞、助詞など
③	尾張藩と城代組番士朝日重章	親藩、御三家、名古屋城
④	元禄4年辛未の日記	大坂塩硝蔵の事
⑤	”	山田村の相撲騒ぎ
⑥	”	建中寺の山門開き
⑦	”	万松寺堀端のためし切
⑧	”	不受不施派を禁ず
⑨	”	相応院殿五十回忌
⑩	”	祐天名号の奇瑞
⑪	”	宰相邸にてお祝御能番組
⑫	”	切られ地蔵縁起
⑬	”	濃州たぎ村の討入事件
⑭	”	大森寺客殿本尊の由来
⑮	まとめ	
⑯	筆記試験	

【授業外学修 予習・復習など】

配布プリントの次回授業の該当箇所を自習した上で授業に臨んでください。また、授業後は、書き下し文と現代語訳文をノートに整理しまとめてください。理解ができない内容についての質問は、オフィスアワーの時間に受け付けますので、遠慮なく聞いてください。あわせて秋学期開講の「日本文化研究b」も履修すると、より理解がしやすくなります。

【単位の認定評価方法及び受講上の留意点】

筆記試験による成績が評価の基本であり、受講生の授業への取り組みも平常点として加味します。その割合は筆記試験70%程度、授業への取り組み30%程度とします。

【テキスト及び参考文献】

テキスト：プリントを配布します。受講生は、史料講読に必要な漢和辞典、国語辞典を持参してください。
参考書：神坂次郎『元禄御豊奉行の日記 尾張藩士の見た浮世』（中央公論社 1984）

科目名	日本文化b			担当教員名	鈴木重喜	
開講基準 年次	授業期間 春・秋学期	開講曜日 時限目	単位数	授業区分 講義・演習・実習	授業コマ数	必修・選択
2	秋	金曜日・3	2	講義	15	選択

サブタイトル 元禄時代の武士の生活からみる江戸文化

【DP(ディプロマポリシー)】

②宗教・仏教・禅・歴史・文化についての豊かな素養を踏まえつつ、対象を正確に理解し、表現することで、他者との相互理解に努め、組織の中で創造的に活動していくことができる。

【到達目標】

- ・古文を読むことができる。
- ・古文を解釈することができる。
- ・江戸時代の社会や文化についての認識や理解を深めることができる。

【授業概要】

本授業では、朝日文左衛門重章の日記『鸚鵡籠中記』を講読します。重章は、尾張藩城代組の100石取りの武士で、貞享元年(1684)から享保2年(1717)まで34年間に渡る日記筆録を残しています。この講読を通して、現代人の生活文化の起点である元禄時代を考えます。

	授業計画・内容	学習成果(キーワード)
①	江戸時代の文章を読む①	数詞、干支、貨幣、度量衡
②	江戸時代の文章を読む②	助動詞、動詞、助詞など
③	尾張藩と城代組番士朝日重章	親藩、御三家、名古屋城
④	元禄5年壬申の日記	若宮の操芝居にて大喧嘩
⑤	”	津島の火事
⑥	”	新築の寺門を傷つく
⑦	”	大悟して死せし女房の話
⑧	”	本願寺通じ所にて鑄鐘
⑨	”	鹿島踊来る
⑩	”	三角関係の末心中
⑪	”	大雷雨中の葬儀
⑫	”	政秀寺の役僧喧嘩
⑬	”	高野山騒動
⑭	”	吉利支丹の疑あって死骸改め
⑮	まとめ	
⑯	筆記試験	

【授業外学修 予習・復習など】

配布プリントの次回授業の該当箇所を自習した上で授業に臨んでください。また、授業後は、書き下し文と現代語訳文をノートに整理しまとめてください。理解ができない内容についての質問は、オフィスアワーの時間に受け付けますので、遠慮なく聞いてください。あわせて春学期開講の「日本文化研究a」も履修すると、より理解がしやすくなります。

【単位の認定評価方法及び受講上の留意点】

筆記試験による成績が評価の基本であり、受講生の授業への取り組みも平常点として加味します。その割合は筆記試験70%程度、授業への取り組み30%程度とします。

【テキスト及び参考文献】

テキスト：プリントを配布します。受講生は、史料講読に必要な漢和辞典、国語辞典を持参してください。
参考書：神坂次郎『元禄御畳奉行の日記 尾張藩士の見た浮世』(中央公論社 1984)

科目名		宗教思想 a		担当教員名		宇佐美之規	
開講基準 年次	授業期間 春・秋学期	開講曜日 時限目	単位数	授業区分 講義・演習・実習	授業コマ数	必修・選択	
2	春	金曜日・2	2	講義	15	選択	

サブタイトル 自力聖道門と他力浄土門

【DP(ディプロマポリシー)】

②宗教・仏教・禅・歴史・文化についての豊かな素養を踏まえつつ、対象を正確に理解し、表現することで、他者との相互理解に努め、組織の中で創造的に活動していくことができる。

【到達目標】

- ・自力と他力について理解し説明できる。
- ・禅と浄土の思想について学習しその相違点と類似性を説明できる。
- ・仏教思想の教義の多様性について理解することができる。

【授業概要】

宗教思想の中の仏教には、さまざまな教えが展開されている。その中で「禅宗」と「浄土真宗」の二つの宗派がある。この二つの宗派は、「自力」と「他力」という対照的な教えを説いているのが特徴であるが、同時に、「禅と念仏」「禅一如」という表現もされる、本講義では、この二つの宗教思想について研究します。

	授業計画・内容	学習成果(キーワード)
①	佛教について1	宗派
②	佛教について2	教義
③	佛教の伝来1	神道と仏教の関係
④	佛教の伝来2	鎮護国家、加持祈祷
⑤	佛教の伝来3	聖徳太子
⑥	佛教の伝来4	仏法興隆
⑦	禅の思想1	見性
⑧	禅の思想2	悟り
⑨	禅の思想3	禅の種類
⑩	禅の思想4	禅の心構え
⑪	浄土の思想1	阿弥陀如来
⑫	浄土の思想2	念仏
⑬	浄土の思想3	厭離穢土・欣求浄土
⑭	浄土の思想4	妙好人
⑮	まとめ	
⑯	試験	

【授業外学修 予習・復習など】

学習成果(キーワード)について、予め調べて授業に出席して下さい。授業後には、授業の内容について簡単にまとめて下さい。

【単位の認定評価方法及び受講上の留意点】

定期試験70%・授業への取組み及び受講態度20%・レポート10%。また、授業の5分の1以上欠席すると、定期試験の受験資格がなくなりますので、注意して下さい。

【テキスト及び参考文献】

テキスト：必要な資料は、担当者の方でコピーし配布します。
参考文献：文献等については、講義中に適時紹介します。

科目名		宗教思想b		担当教員名	宇佐美之規	
開講基準 年次	授業期間 春・秋学期	開講曜日 時限目	単位数	授業区分 講義・演習・実習	授業コマ数	必修・選択
2	秋	金曜日・2	2	講義	15	選択

サブタイトル 宗教の定義、仏教とキリスト教

【DP(ディプロマポリシー)】

②宗教・仏教・禅・歴史・文化についての豊かな素養を踏まえつつ、対象を正確に理解し、表現することで、他者との相互理解に努め、組織の中で創造的に活動していくことができる。

【到達目標】

- ・宗教とReligionの語義について研究し理解を深めることができる。
- ・仏教とキリスト教について、その思想について理解を深めることができる。
- ・布教についての思想の違いについて学習し理解を深めることができる。

【授業概要】

さまざま宗教が存在するが、宗教の定義について研究し、更に、日本に伝来した宗教である仏教とキリスト教の二つに絞り、その伝来した際の影響について研究します。

	授業計画・内容	学習成果(キーワード)
①	宗教とは	神道、佛教、キリスト教
②	課題作成1	オットー、デュルケム等
③	課題作成2	エリアーデ、鈴木大拙等
④	宗教の定義について	定義づけ
⑤	課題作成3	宗教の定義
⑥	課題作成4	宗教の定義
⑦	宗教とReligion1	Religionの語義
⑧	宗教とReligion2	日本語における宗教の語義
⑨	佛教の伝来1	仏像、経論
⑩	佛教の伝来2	神道と仏教
⑪	佛教の伝来3	重層構造
⑫	キリスト教の伝来1	イエズス会
⑬	キリスト教の伝来2	イエズス会士と戦国大名
⑭	キリスト教の伝来3	イエズス会の伝導精神
⑮	まとめ	
⑯	試験	

【授業外学修 予習・復習など】

学習成果(キーワード)について、予め調べて授業に出席して下さい。授業後には、授業の内容について簡単にまとめて下さい。

【単位の認定評価方法及び受講上の留意点】

定期試験70%・授業への取組み及び受講態度20%・レポート10%。また、授業の5分の1以上欠席すると、定期試験の受験資格がなくなりますので、注意して下さい。

【テキスト及び参考文献】

テキスト：必要な資料は、担当者の方でコピーし配布します。
参考文献：文献等については、講義中に適時紹介します。

科目名	仏教福祉 a			担当教員名	今村敬子	
開講基準 年次	授業期間 春・秋学期	開講曜日 時限目	単位数	授業区分 講義・演習・実習	授業コマ数	必修・選択
2	春	月曜日・3	2	講義	15	選択

サブタイトル	現代に生きる仏教社会福祉
--------	--------------

【D P (ディプロマポリシー)】

②宗教・仏教・禅・歴史・文化についての豊かな素養を踏まえつつ、対象を正確に理解し、表現することで、他者との相互理解に努め、組織の中で創造的に活動していくことができる。

【到達目標】

- 1、仏教社会福祉とは何かを理解し説明することが出来る。
- 2、現代における仏教社会福祉活動の社会的活動と意義について説明することが出来る。
- 3、現代における仏教社会福祉活動の課題と諸問題について考察することが出来る。
- 4、今後の仏教社会福祉活動の展望と対策を構築することが出来る。

【授業概要】

日本の仏教社会福祉は戦後の社会福祉国家への道をあゆみはじめた時期に、先達や祖先が「貧苦の淵からの呻き」に目覚め「福祉の知」へと導いた歴史が仏教的慈善から仏教社会福祉への悠久の流れをつくった（中垣）と発表されているように仏教福祉は過去に築かれた慈善、救済、感化、援護、援助などの概念の定義から貧乏や困窮を社会問題としてとらえる科学的視点から現実的・具体的な科学的認識によって組織化されるソーシャルワークの可能性が追求されはじめたことの実践編の講義である。

	授業計画・内容	学習成果（キーワード）
①	仏教社会福祉とは何か	仏教社会福祉の人間観・役割
②	仏教社会福祉のあゆみ	仏教社会福祉の再生と展望
③	仏教社会福祉の支援と担い手	仏教支援（相談、子育て）
④	”	介護ケア、臨終ケア、地域福祉
⑤	現代に生きる仏教社会福祉	人間解放、いのちの輝き、高齢者
⑥	”	子供、障がいを支える、司法福祉
⑦	実践編 第1章 なぜこころのケアが必要か	病院、生、老、病、死
⑧	第2章 スピリチュアルケア	スピリチュアリティ
⑨	第3章 仏教のケア論	いのち、老死、看取り、救済
⑩	第4章 現代におけるスピリチュアルケア事例	臨床事例3題
⑪	第5章 家族にとってのスピリチュアルケア	死生観、輪廻観、ケアリング
⑫	”	在宅ケア、家族援助
⑬	第6章 スピリチュアルケアの展望	専門性、親子のスピリチュアリィ
⑭	”	ネットワーク、ケアワーカー
⑮	”	スピリチュアルケアの未来像
⑯	定期試験	

【授業外学修 予習・復習など】

予めテキストを事前に読んで、問題意識をもって授業に臨むこと。復習としては前時の学習内容事項の把握成果として、毎回、課題に対する小レポート（コメント等）を提出する。

【単位の認定評価方法及び受講上の留意点】

毎回の課題に対する小レポート、定期試験、提出物、授業態度（発表）をもって評価を行う。

【テキスト及び参考文献】

テキスト：『仏教社会福祉入門』2014 日本仏教社会福祉学会（株）法蔵館
『癒し癒されるスピリチュアルケア』2004 大下大圓著 医学書院

科目名		仏教福祉b		担当教員名		今村敬子	
開講基準 年次	授業期間 春・秋学期	開講曜日 時限目	単位数	授業区分 講義・演習・実習	授業コマ数	必修・選択	
2	秋	月曜日・3	2	講義	15	選択	

サブタイトル 一仏教の先達に学ぶ一仏教の精神力の一つである慈悲はまさに福祉である

【DP(ディプロマポリシー)】

②宗教・仏教・禅・歴史・文化についての豊かな素養を踏まえつつ、対象を正確に理解し、表現することで、他者との相互理解に努め、組織の中で創造的に活動していくことができる。

【到達目標】

- ・古代から現代にいたるまでの先達の仏教福祉思想と実践活動を理解し説明することが出来る。
- ・各時代における社会的実態と仏教福祉の必要性について説明することが出来る。
- ・各時代における仏教福祉の実践の諸問題について考察することが出来る。
- ・現代社会においても仏教精神の核である慈悲の心を養成し、実際の日常生活において少しでも実践することが出来る

【授業概要】

近年の高齢社会における社会福祉制度・施設等の外枠事業の充実化は改善されてきているが、内枠である『福祉のこころ』の教育は追いついていない。『福祉のこころ』とは、思想概念ではなく、一人ひとりが個々の心の中にある問題意識のありかたにたどりつくことが必要である。医療も含めた社会福祉事業は自律的に生きようとする者の援助・介護・手助けの役割機能にすぎない。仏教等の先達に学ぶ精神力が問題解決に求められていると考える。

	授業計画・内容	学習成果(キーワード)
①	I 仏教からみた福祉とは何か 1, 2, 3, 梵網経	『梵網経』、十善戒
②	4, 5, 6 孝養を尽くす、病人の仏教看護	看護の心得『スッタ・ニパータ』
③	7, 8 奈良・平安・鎌倉時代にみる福祉思想	「信」と利他救済
④	II 『維摩経』と親鸞における福祉のこころ	『維摩経』
⑤	2, 慈悲と智慧, 往生廻向と還相廻向	智慧としての光、信心歓喜
⑥	III 道元における菩薩道と福祉のこころ	大乘仏典、布施観
⑦	1, 四摂法でとらえる福祉思想	四摂法
⑧	2, 菩薩道の精神	『正法眼蔵随聞記』福祉救済
⑨	IV 良寛における福祉のこころ	現代福祉につながる精神・こころ
⑩	3, 童心・風雅のこころと「気」	出家、円通寺、帰郷、五合庵
⑪	4, 歌からみる自然・生命への愛情	奉仕、福祉、献身、共存共同体
⑫	V 妙好人才市をとおしてみた命	妙好人、聞信、聴聞、慚愧と歓喜
⑬	3, 妙好人の特色 5, 生い立ちから宗教世界へ	信仰告白、念仏信仰の極楽往生
⑭	VI 宮沢賢治における福祉のこころ	常不軽菩薩、雨二モマケズ
⑮	1, 生い立ちと思想形成 賢治と『法華経』	修羅の自覚、
⑯	期末試験	

【授業外学修 予習・復習など】

予めテキストを事前に読んで、問題意識をもって授業に臨むこと。復習としては前時の学習内容事項の把握成果として、毎回、課題に対する小レポート(コメント等)を提出する。

【単位の認定評価方法及び受講上の留意点】

毎回の課題に対する小レポート、定期試験、提出物、授業態度(発表)をもって評価を行う

【テキスト及び参考文献】

『仏教福祉の心』著者 新保哲 2005 (株)法蔵館 2,400円

科目名		禅宗経典 a		担当教員名		村瀬正光	
開講基準 年次	授業期間 春・秋学期	開講曜日 時限目	単位数	授業区分 講義・演習・実習	授業コマ数	必修・選択	
2	春	火曜日・1	2	講義	15	選択	

サブタイトル 禅宗のお経とは

【DP(ディプロマポリシー)】

②宗教・仏教・禅・歴史・文化についての豊かな素養を踏まえつつ、対象を正確に理解し、表現することで、他者との相互理解に努め、組織の中で創造的に活動していくことができる。

【到達目標】

- ・ 経典の読み方を習得し、その内容を理解し説明することができる。
- ・ 仏教や禅の思想(さとりととは何か)を理解し、その特徴を説明することができる。
- ・ 現代社会における諸問題と仏教を結びつけて、哲学的に考察することが出来る。

【授業概要】

本授業では、禅宗経典について、特に基礎的経典について学習する。授業では基本的経典を読み、語句の解説を加えながら、仏教・禅についての理解と関心を深め、その内容を説明できる能力を身につけることを目的として取り組む。授業の進度は、学生の習熟度により若干の変更あり。

	授業計画・内容	学習成果(キーワード)
①	経典とは	
②	いろは歌(大般涅槃経)	色、無常、有為
③	開経偈	無上、法、如来
④	七佛通戒偈・夜叉説半偈	諸悪莫作、諸行無常
⑤	剃髮偈・懺悔文・三帰戒	衆生、煩惱、寂滅、貪瞋癡、懺悔、佛法僧
⑥	四弘誓願文	衆生、煩惱、仏道
⑦	般若心経	摩訶、般若、波羅蜜多、心経
⑧	〃	観自在菩薩、五蘊皆空、舍利子
⑨	〃	色、空、受想行識
⑩	〃	眼耳鼻舌身意、色声香味触法
⑪	〃	眼界、意識界、無明、老死
⑫	〃	苦集滅道、涅槃
⑬	〃	三世諸仏、菩提
⑭	テスト	
⑮	回答合わせ	
⑯	まとめ	

【授業外学修 予習・復習など】

この授業の履修にあたり、学習成果(キーワード)の予習(読み方、意味等を調べる)を行い、授業後には講義の内容を確認して下さい。質問等は授業で受け付けます。

【単位の認定評価方法及び受講上の留意点】

評価は、定期試験(筆記試験 持ち込み不可 90%)、授業への取り組み(10%)により評価を行う。なお、講義時数の5分の1以上欠席(遅刻・早退は2回で1回の欠席)すると失格

【テキスト及び参考文献】

テキスト：『勤行聖典』 参考文献 『仏教語辞典』編者・出版社は問わない。
その他、必要な文献については、講義中に適宜紹介する。

科目名	禅宗経典b			担当教員名	村瀬正光	
開講基準 年次	授業期間 春・秋学期	開講曜日 時限目	単位数	授業区分 講義・演習・実習	授業コマ数	必修・選択
2	秋	火曜日・1	2	講義	15	選択

サブタイトル	禅宗のお経とは
--------	---------

【DP(ディプロマポリシー)】

②宗教・仏教・禅・歴史・文化についての豊かな素養を踏まえつつ、対象を正確に理解し、表現することで、他者との相互理解に努め、組織の中で創造的に活動していくことができる。

【到達目標】

- ・ 経典の読み方を習得し、その内容を理解し説明することができる。
- ・ 仏教や禅の思想（さとりととは何か）を理解し、その特徴を説明することができる。
- ・ 現代社会における諸問題と仏教を結びつけて、哲学的に考察することが出来る。

【授業概要】

本授業では、禅宗経典について、特に基礎的経典について学習する。授業では基本的経典を読み、語句の解説を加えながら、仏教・禅についての理解と関心を深め、その内容を説明できる能力を身につけることを目的として取り組む。授業の進度は、学生の習熟度により若干の変更あり。

	授業計画・内容	学習成果（キーワード）
①	経典とは	
②	白隠禅師坐禅和讃	衆生本来仏
③	〃	六趣輪廻、愚痴、生死
④	〃	摩訶衍の禅定、布施、持戒
⑤	〃	浄土、自性、無性、無相
⑥	〃	無念、四智、寂滅、
⑦	興禅大燈国師遺誡	大徳寺、宗峰妙超、無理会
⑧	〃	仏祖不伝、真風地に墜つ、
⑨	〃	児孫、己事、報恩底
⑩	無相大師遺誡	妙心寺、関山慧玄、大應、虚堂、路頭再過
⑪	〃	日多の記、楊岐の正脈、大燈
⑫	〃	長養、真風不地の遺誡、花園
⑬	大慧禅師発願文	大慧、大事、仏祖の恩
⑭	テスト	
⑮	回答合わせ	
⑯	中峰和尚座右銘	中峰、見性、生死大事・・・

【授業外学修 予習・復習など】

この授業の履修にあたり、学習成果（キーワード）の予習（読み方、意味等を調べる）を行い、授業後には講義の内容を確認して下さい。質問等は授業で受け付けます。

【単位の認定評価方法及び受講上の留意点】

評価は、定期試験（筆記試験 持ち込み不可 90%）、授業への取り組み（10%）により評価を行う。なお、講義時数の5分の1以上欠席（遅刻・早退は2回で1回の欠席）すると失格

【テキスト及び参考文献】

テキスト：『勤行聖典』 参考文献 『仏教語辞典』 編者・出版社は問わない。
その他、必要な文献については、講義中に適宜紹介する。

科目名		禅宗法儀 a		担当教員名		後藤安弘	
開講基準 年次	授業期間 春・秋学期	開講曜日 時限目	単位数	授業区分 講義・演習・実習	授業コマ数	必修・選択	
2	春	金曜日・1	2	講義	15	選択	

サブタイトル	臨済宗の儀式を学ぶ
--------	-----------

【DP(ディプロマポリシー)】
 ②宗教・仏教・禅・歴史・文化についての豊かな素養を踏まえつつ、対象を正確に理解し、表現することで、他者との相互理解に努め、組織の中で創造的に活動していくことができる。

【到達目標】

- ・臨済宗の儀式を習得し、その内容を理解し説明することができる。
- ・臨済宗の儀式の特徴を理解し、説明することができる。
- ・臨済宗の儀式を学ぶことにより、禅の精神を考察することができる。

【授業概要】
 臨済宗の法式行事は、「小叢林略清規」を基本として、「江湖法式梵唄抄」等に依って行われている。しかし、僧堂によって家風があり、作法や行事の進め方など異なっている所がある。本講義では、正眼僧堂における法式を旨として、臨済宗の行事の準備、進め方を習得してゆくものです。その行事の根底を流れている禅の思想も考察してゆきたい。

	授業計画・内容	学習成果(キーワード)
①	法儀とは	清規
②	回向帳の作成	七折半
③	降誕会作法	誕生仏、浴仏偈
④	降誕会の準備と進行	花亭(花御堂)
⑤	得度式作法	周羅、戒柝、四恩
⑥	得度式の準備と進行	四恩牌、
⑦	施餓鬼作法 声明	あたり、下げ
⑧	施餓鬼作法 鳴らしもの	鈴、太鼓、鉢、水向け
⑨	施餓鬼の準備と進行	洗米、しきみ
⑩	施餓鬼幡の作成	青黄赤白黒
⑪	幕の張り方と総角結び	房
⑫	齋会作法	開山忌、宿忌、楞嚴咒、行道
⑬	齋会の諸寮とその役割	維那、侍真、茶の受け渡し
⑭	齋会の準備と進行	拜請、金封
⑮	出齋作法	朱膳朱椀
⑯	試験	

【授業外学修 予習・復習など】
 必ず授業前にキーワードを辞書等で調べてください。また、授業後メモやメール等で教員に分からないことや不明点を質問し、自分でも図書館等で調べてください。

【単位の認定評価方法及び受講上の留意点】
 評価は、定期試験(筆記試験 持ち込み不可 80%)、授業への取り組み(20%)により評価を行う。
 なお、授業時数の5分の1以上欠席(遅刻・早退は2回で1回の欠席)すると試験受験資格を失格します。

【テキスト及び参考文献】
 テキスト：プリントを配布します。
 参考文献：『江湖法式梵唄抄』法式梵唄研究会編 禅文化研究所 16,000円(税抜) 『臨済宗衲観』伊藤古鑑 其中堂 3,500円(税抜)

科目名		禅宗法儀b		担当教員名		後藤安弘	
開講基準 年次	授業期間 春・秋学期	開講曜日 時限目	単位数	授業区分 講義・演習・実習	授業コマ数	必修・選択	
2	秋	金曜日・1	2	講義	15	選択	

サブタイトル	臨済宗の儀式を学ぶ
--------	-----------

【DP(ディプロマポリシー)】

②宗教・仏教・禅・歴史・文化についての豊かな素養を踏まえつつ、対象を正確に理解し、表現することで、他者との相互理解に努め、組織の中で創造的に活動していくことができる。

【到達目標】

- ・臨済宗の儀式を習得し、その内容を理解し説明することができる。
- ・臨済宗の儀式の特徴を理解し、説明することができる。
- ・臨済宗の儀式を学ぶことにより、禅の精神を考察することができる。

【授業概要】

臨済宗の法式行事は、「小叢林略清規」を基本として、「江湖法式梵唄抄」等に依って行われている。しかし、僧堂によって家風があり、作法や行事の進め方など異なっている所がある。本講義では、正眼僧堂における法式を旨として、臨済宗の行事の準備、進め方を習得してゆくものです。その行事の根底を流れている禅の思想も考察してゆきたい。

	授業計画・内容	学習成果(キーワード)
①	法儀とは	清規
②	大般若会作法	転読
③	大般若会の準備と進行	修正会、善月祈祷、印
④	晋山式作法	香語
⑤	晋山式の準備と進行	門牌、安下所、拜請
⑥	在家葬儀作法	得度、剃髪
⑦	尊宿葬儀作法	遷化
⑧	尊宿葬儀の準備と進行	訃音、通夜、龕前念誦
⑨	葬儀塔婆作法	十三仏 十王
⑩	開山忌作法	列拜、鉢、茶鼓
⑪	開山忌の準備と進行	荷担、会下
⑫	立柱式棟上式作法	神酒、棟札
⑬	撥遣、精入作法	六味、塩、洗米
⑭	僧堂掛搭作法	庭話、旦過、腰上
⑮	僧堂掛搭作法	知客寮相見、隠寮相見
⑯	試験	

【授業外学修 予習・復習など】

必ず授業前にキーワードを辞書等で調べてください。また、授業後メモやメール等で教員に分からないことや不明点を質問し、自分でも図書館等で調べてください。

【単位の認定評価方法及び受講上の留意点】

評価は、定期試験(筆記試験 持ち込み不可 80%)、授業への取り組み(20%)により評価を行う。
なお、授業時数の5分の1以上欠席(遅刻・早退は2回で1回の欠席)すると試験受験資格を失格します。

【テキスト及び参考文献】

テキスト：プリントを配布します。

参考文献：『江湖法式梵唄抄』法式梵唄研究会編 禅文化研究所 16,000円(税抜) 『臨済宗衲観』伊藤古鑑 其中堂 3,500円(税抜)

科目名		日本事情Ⅱ a		担当教員名		鈴木重喜	
開講基準 年次	授業期間 春・秋学期	開講曜日 時限目	単位数	授業区分 講義・演習・実習	授業コマ数	必修・選択	
1	春	月曜日・1	2	講義	15	留学生選択必修	

サブタイトル 日本文化を歴史から学ぶ

【DP(ディプロマポリシー)】

①広い社会的関心と教養を有し、宗教・仏教・禅・歴史・文化について説明でき、特に禅について深い専門的知識を習得している。

【到達目標】

- ・日本文化についてその意味を理解し、日本の言葉で表現できる。
- ・日本文化についてその意味を理解し、日本語の文章で表現できる。
- ・日本文化についての認識や理解を深めることができる。

【授業概要】

日本人は長い歴史の中で文化を形成し、現在まで伝えてきています。この授業では、日本の文化史を取り上げた書物を講読し、日本語の学習を兼ねます。毎回の授業のはじめに、学習する内容の説明を行った上で書物を読みます。また、日本語の上達度に応じて、日本文化に関する発表もさせていただきます。

	授業計画・内容	学習成果(キーワード)
①	オリエンテーション	
②	武士の台頭	一所懸命、主従制、騎射三物
③	武具の変化	大鎧、腹巻、胴丸、具足
④	職人と農民の生活	座、二毛作、灌漑排水施設
⑤	鎌倉新興仏教と旧仏教	法然、親鸞、栄西、道元、日蓮
⑥	鎌倉時代の寺院建築	天竺様、唐様、和様
⑦	水墨画の流行	明兆、如拙、周文、雪舟
⑧	金閣寺と銀閣寺	足利義満、足利義政、廻遊式庭園
⑨	武家の学問	北条実時、金澤文庫
⑩	鎌倉時代の文学	平家物語、方丈記、徒然草
⑪	庶民文学としての連歌	二条良基、飯尾宗祇、山崎宗鑑
⑫	能楽の大成	観阿弥・世阿弥
⑬	喫茶の風習と茶道の発生	村田珠光、武野紹鷗、千利休
⑭	各地で始まった陶器の生産	加藤四郎左衛門景正、李参平
⑮	まとめ	
⑯	筆記試験	

【授業外学修 予習・復習など】

配布プリントの次回授業の該当箇所を自習した上で、授業に臨んでください。また、授業後は、授業の内容を文章化して簡潔にまとめてください。理解できない内容についての質問は、オフィスアワーの時間に受け付けますので、遠慮なく聞いてください。あわせて秋学期開講の「日本事情b」も履修すると、より理解がしやすくなります。

【単位の認定評価方法及び受講上の留意点】

筆記試験による成績が評価の基本であり、受講生の授業への取り組みも平常点として加味します。その割合は筆記試験70%程度、授業への取り組み30%程度とします。

【テキスト及び参考文献】

テキスト：プリントを配布します。解釈に必要な中日辞典、英和辞典等を持参してください。
参考文献：日本語学習の進度により適宜紹介します。

科目名		日本事情Ⅱb		担当教員名		鈴木重喜	
開講基準 年次	授業期間 春・秋学期	開講曜日 時限目	単位数	授業区分 講義・演習・実習	授業コマ数	必修・選択	
1	秋	月曜日・1	2	講義	15	留学生選択必修	

サブタイトル 日本文化を歴史から学ぶ

【DP(ディプロマポリシー)】

①広い社会的関心と教養を有し、宗教・仏教・禅・歴史・文化について説明でき、特に禅について深い専門的知識を習得している。

【到達目標】

- ・日本文化についてその意味を理解し、日本の言葉で表現できる。
- ・日本文化についてその意味を理解し、日本語の文章で表現できる。
- ・日本文化についての認識や理解を深めることができる。

【授業概要】

日本人は長い歴史の中で文化を形成し、現在まで伝えてきています。この授業では、日本の文化史を取り上げた書物を講読し、日本語の学習を兼ねます。毎回の授業のはじめに、学習する内容の説明を行った上で書物を読みます。また、日本語の上達度に応じて、日本文化に関する発表もさせていただきます。

	授業計画・内容	学習成果(キーワード)
①	オリエンテーション	
②	家系図の創作	源平藤橘
③	徐々に豊かになっていった江戸時代の食事	初物、鮓屋、そば屋、しるこ屋
④	防災都市として発展した江戸の街	大名火消し、定火消し、町火消し
⑤	信仰の旅	伊勢参り、弘法大師巡礼
⑥	浮世絵の流行	菱川師宣、喜多川歌麿、葛飾北斎
⑦	歌舞伎の流行	市川團十郎、坂田藤十郎
⑧	浮世草子と俳諧	井原西鶴、松永貞徳、松尾芭蕉
⑨	川柳、狂歌の発生と俳諧、和歌の発展	柄井川柳、大田南畝、小林一茶
⑩	儒学の広まりと分化	林羅山、山崎闇斎、中江藤樹
⑪	国学の発生	賀茂真淵、本居宣長、平田篤胤
⑫	暦法と和算の発達	安井算哲、関孝和
⑬	様々な分野の学問に影響を与えた洋学	西川如見、前野良沢、杉田玄白
⑭	藩校と寺子屋	大名、庶民、私塾
⑮	まとめ	
⑯	筆記試験	

【授業外学修 予習・復習など】

配布プリントの次回授業の該当箇所を自習した上で、授業に臨んでください。また、授業後は、授業の内容を文章化して簡潔にまとめてください。理解できない内容についての質問は、オフィスアワーの時間に受け付けますので、遠慮なく聞いてください。あわせて春学期開講の「日本事情a」も履修すると、より理解がしやすくなります。

【単位の認定評価方法及び受講上の留意点】

筆記試験による成績が評価の基本であり、受講生の授業への取り組みも平常点として加味します。その割合は筆記試験70%程度、授業への取り組み30%程度とします。

【テキスト及び参考文献】

テキスト：プリントを配布します。解釈に必要な中日辞典、英和辞典等を持参してください。
参考文献：日本語学習の進度により適宜紹介します。

科目名		太極拳		担当教員名		水谷和郎	
開講基準 年次	授業期間 春・秋学期	開講曜日 時限目	単位数	授業区分 講義・演習・実習	授業コマ数	必修・選択	
1	秋	土曜日・3	1	実習	15	選択	

サブタイトル 武術の動きで、しなやかな心と体を作る。

【D P (ディプロマポリシー)】

①広い社会的関心と教養を有し、宗教・仏教・禅・歴史・文化について説明でき、特に禅について深い専門的知識を習得している。②宗教・仏教・禅・歴史・文化についての豊かな素養を踏まえつつ、対象を正確に理解し、表現することで、他者との相互理解に努め、組織の中で創造的に活動していくことができる。

【到達目標】

- ・身体感覚を養うことによって、意識・呼吸・動作の結合を体感することができる。
- ・中国の伝統文化を学び、禅の精神が武術の中にも生きていることを理解し説明することができる。
- ・無理の無い力の使い方や意識の持ち方を身につけ、日常生活にも応用できる。

【授業概要】

太極拳は中国伝統の武術と養生法が結合したもので、その文化的背景には儒教・道教・仏教の関わり合いの歴史があります。本講座では中国古来の身体観や思想の一端を学びながら、「自己を知る工夫」として太極拳の実習を通じて自己の心身への認識を深めると共に、「相手を知る工夫」として「推手（すいしゅ）」という力のやり取りの基本練習の中から相手の心身の状況を察知する感覚を養います。

	授業計画・内容	学習成果（キーワード）
①	太極拳入門套路。太極拳の歴史、基本原理	太極、無極、心静体鬆、動中求静
②	太極拳入門套路。『太極拳術十要』	立身中正、虚靈頂勁、氣沈丹田
③	太極拳入門套路。『太極拳術十要』	含胸拔背、沈肩墜肘、鬆腰
④	太極拳入門套路。『太極拳術十要』	虚実分明、双重、
⑤	太極拳入門套路。『太極拳術十要』	上下相随、一動全動
⑥	太極拳入門套路。『太極拳術十要』	相連不斷、運動如抽糸
⑦	太極拳入門套路。『太極拳術十要』	用意不用力、内外相合
⑧	太極拳入門套路。推手（単手平円）	不丢不頂（ふちゅうふちよう）
⑨	太極拳入門套路。推手（単手平円）	捨己従人
⑩	太極拳入門套路。老子の思想と太極拳	上善若水、天下莫柔弱於水
⑪	太極拳入門套路。道教の生命観	性命双修、精・氣・神、氣功
⑫	太極拳入門套路。宋学（朱子学）と太極思想	無極而太極、静坐
⑬	太極拳入門套路。『太極拳論』	張三豊、王宗岳、武禹襄
⑭	太極拳入門套路。『太極拳論』	完整一氣、滔々不絶
⑮	太極拳入門套路。『太極拳論』	無過不及、不偏不倚
⑯	太極拳入門套路。『太極拳論』	静如山岳、動如江河

【授業外学修 予習・復習など】

事前に『太極拳術十要』を熟読して、受講の際に必要な用語の意味を理解しておいてください。またそれを参考にして日常生活においても無理のない動きが出来るよう心がけてください。

【単位の認定評価方法及び受講上の留意点】

授業への取り組み（60％程度）と筆記試験（40％程度）で判定します。
運動量は体力に応じて各自調節できます。外形よりも体感を重視しますので真摯な取り組みをお願いします。
なお、授業時数の5分の1以上欠席すると、筆記試験の受験資格がなくなりますので、注意してください。

【テキスト及び参考文献】

テキスト：プリントを配布します。

参考論文：水谷『太極拳と禅—「静」の追求』（『正眼短期大学 研究紀要』第7号 所収）

科目名		ヨガ		担当教員名		酒向秀子	
開講基準 年次	授業期間 春・秋学期	開講曜日 時限目	単位数	授業区分 講義・演習・実習	授業コマ数	必修・選択	
1	春	土曜日・3	1	実習	15	選択	

サブタイトル 体の健康と心の平安を。

【DP(ディプロマポリシー)】

①広い社会的関心と教養を有し、宗教・仏教・禅・歴史・文化について説明でき、特に禅について深い専門的知識を習得している。②宗教・仏教・禅・歴史・文化についての豊かな素養を踏まえつつ、対象を正確に理解し、表現することで、他者との相互理解に努め、組織の中で創造的に活動していくことができる。

【到達目標】

- ・自己と向き合う事で、気づきと感性を深める
- ・心身の健康度を高め、ストレスに左右されない強い精神力と自己制御力をつける。
- ・自身の内面を意識化し受け入れることで、他者を思いやる心を深める。(コミュニケーション能力が付く)。

【授業概要】

ヨガは古来インドから今日まで伝承され続けている体系化された精神修行の道です。アーサナ、呼吸法、瞑想は心身に深く影響を与えます。ヨガの実践で本来の自分らしさを取り戻し、ストレス社会において、ストレス・マネジメント法として、自己制御力を向上させる。

	授業計画・内容	学習成果(キーワード)
①	ヨガの歴史・健康について・ブリージング・エクササイズ	WHOの定義
②	人間馬車説・ブリージング・エクササイズ	ハズ・イン・アウト・ブリージング等
③	人間五蔵説・アーサナ・呼吸法・瞑想	アイソトリック・ヨガ・完全呼吸法
④	ヨガ八支則・アーサナ・呼吸法・瞑想	ヤマ・ニヤマ 両鼻アノマ・ウイロマ
⑤	肉体的、感情的自己制御法。アーサナ・呼吸法	片鼻アノマ・ウイロマ呼吸法
⑥	ストレスとヨガ。各種アーサナ。呼吸法。瞑想	ナーディ・シュディ呼吸法・
⑦	ワークショップ	不安感への制御法
⑧	アーサナ・リラクゼーション法・呼吸法・瞑想	クイック・リラクゼーション・テクニック
⑨	アーサナ・リラクゼーション法・呼吸法・瞑想	ディープ・リラクゼーション・テクニック
⑩	講義とビデオ視聴	ヨーガ療法DVD
⑪	アーサナ・太陽の礼拝A・呼吸法・瞑想	スーリヤ・ナマスカラ
⑫	アーサナ・太陽の礼拝A・呼吸法・瞑想	スーリヤ・ナマスカラ
⑬	アーサナ・太陽の礼拝B・呼吸法・瞑想	ダイクミック・スーリヤ・ナマスカラ
⑭	アーサナ・太陽の礼拝B・呼吸法・瞑想	ダイクミック・スーリヤ・ナマスカラ
⑮	まとめ	
⑯	まとめ	

【授業外学修 予習・復習など】

授業後は講義、実技の内容をまとめてください。また、授業で行ったヨガを毎日行ってください。

【単位の認定評価方法及び受講上の留意点】

- ・定期試験はレポート形式です。(50%) 授業への取り組み(50%)です。
- ・授業時数の5分の1以上欠席すると、定期試験の受験資格を失う為注意をしてください。

【テキスト及び参考文献】

テキスト：木村慧心 著 「実践 ヨーガ療法」(ガイヤブック 2,400円+消費税)
：プリント配布

科目名		茶道 a		担当教員名	辻 栄 治	
開講基準 年次	授業期間 春・秋学期	開講曜日 時限目	単位数	授業区分 講義・演習・実習	授業コマ数	必修・選択
1	春	金曜日・1	1	実習	15	選択

サブタイトル 茶道から学ぶ日本の伝統文化とおもてなしの心

【D P (ディプロマポリシー)】

①広い社会的関心と教養を有し、宗教・仏教・禅・歴史・文化について説明でき、特に禅について深い専門的知識を習得している。②宗教・仏教・禅・歴史・文化についての豊かな素養を踏まえつつ、対象を正確に理解し、表現することで、他者との相互理解に努め、組織の中で創造的に活動していくことができる。

【到達目標】

- ・薄茶点前ができ美味しくお茶を点てる事ができる。
- ・茶会に招かれても恥ずかしくなく客ができる。
- ・茶道のおもてなしの心が理解できる。

【授業概要】

日本の伝統文化である茶道を、割稽古（帛紗捌き、棗の清め方、茶巾のたたみ方等、点前に先立って行う稽古）、盆略点前、薄茶点前を習得、お客としての基本的な心構えを学びます。また、点前だけでなく掛け軸、茶碗などの扱いを学びます。掛け軸の書、茶碗など焼き物、総合芸術である茶道を理解できるようにします。稽古を通じて茶道の、思いやりの心を養い、礼儀正しさと豊かな心を身につけます。季節にあった点前を稽古し、茶道の素晴らしさを実感できるようにします。

	授業計画・内容	学習成果（キーワード）
①	茶道を学ぶにあたって基礎的な知識	歴史、立ち居振る舞い
②	割り稽古	帛紗捌き、棗、茶杓の清め方
③	”	お茶のいただき方
④	盆略点前	お盆を使ってお茶を点てる
⑤	”	”
⑥	”	”
⑦	薄茶点前	風炉にて薄茶を点てる
⑧	”	”
⑨	”	”
⑩	棚にて薄茶点前	風炉、棚を使い薄茶を点てる
⑪	”	”
⑫	葉蓋にて薄茶	特殊点前の意味を理解する
⑬	”	”
⑭	洗い茶巾にて薄茶点前	”
⑮	” 実技試験	”
⑯	定期試験	

【授業外学修 予習・復習など】

点前は稽古を何度も何度も繰り返して行う事により身に付くものです。予習、復習を必ずしておいて下さい。

【単位の認定評価方法及び受講上の留意点】

実技試験 30%、レポート（400字程度、茶道を学んで感じた事）20%、授業態度 20%、筆記試験 30%。なお5分の1以上欠席すると筆記試験の受験資格がなくなるので注意。男女共着物着用（男子袴着用、男女共白足袋着用）、帛紗、茶道用扇子

【テキスト及び参考文献】

テキスト：学校茶道裏千家より発行「学校茶道初級編」

科目名		茶道b		担当教員名	辻 栄 治	
開講基準 年次	授業期間 春・秋学期	開講曜日 時限目	単位数	授業区分 講義・演習・実習	授業コマ数	必修・選択
1	秋	金曜日・1	1	実習	15	選択

サブタイトル | 茶道から学ぶ日本の伝統文化とおもてなしの心

【D P (ディプロマポリシー)】

①広い社会的関心と教養を有し、宗教・仏教・禅・歴史・文化について説明でき、特に禅について深い専門的知識を習得している。②宗教・仏教・禅・歴史・文化についての豊かな素養を踏まえつつ、対象を正確に理解し、表現することで、他者との相互理解に努め、組織の中で創造的に活動していくことができる。

【到達目標】

- ・薄茶点前ができ美味しくお茶を点てる事ができる。
- ・茶会に招かれても恥ずかしくなく客ができる。
- ・茶道のおもてなしの心が理解できる。

【授業概要】

明治以降洋風文化が入り、腰掛けてお茶を点てる点前ができました。その立礼の点前を稽古します。5月から稽古してきた風炉の点前が、11月から炉の点前に変ります。季節を大事にする茶道の思いやりの心を実践で学びます。点前だけでなく、掛け軸の禅語などの意味も勉強します。また、掛け軸、茶碗の扱ひも学びます。

	授業計画・内容	学習成果（キーワード）
①	茶道を学ぶにあたって基礎的な知識	歴史、立ち居振る舞い
②	棚にて薄茶点前（平棗使用）	平棗の扱ひを理解する
③	立礼にて薄茶点前（御園棚使用）	御園棚にて薄茶を点てる
④	”	”
⑤	”	”
⑥	炉薄茶点前	炉にて薄茶点前を習得する
⑦	”	”
⑧	”	”
⑨	炉棚にて薄茶点前	棚での扱ひを習得する
⑩	”	”
⑪	炉棚にて薄茶点前（絞り茶巾）	絞り茶巾の点前を理解する
⑫	”	”
⑬	”	”
⑭	炉流し点て	流し点ての意味を理解する
⑮	”（実技試験）	”
⑯	定期試験	定期試験

【授業外学修 予習・復習など】

点前は稽古を何度も何度も繰り返して行う事により身につくものです。復習、予習は必ずしてきて下さい。

【単位の認定評価方法及び受講上の留意点】

実技試験30%、レポート（400字程度、茶道を学んで感じた事）20%、授業態度20%、筆記試験30%。なお5分の1以上欠席すると筆記試験の受験資格がなくなるので注意。男女共着物着用（男子袴着用、男女共白足袋着用）、帛紗、茶道用

【テキスト及び参考文献】

テキスト：学校茶道裏千家より発行「学校茶道初級編」

科目名		筆禅道 a		担当教員名		加藤舞心	
開講基準 年次	授業期間 春・秋学期	開講曜日 時限目	単位数	授業区分 講義・演習・実習	授業コマ数	必修・選択	
1	春	土(隔週) 1・2	1	実習	15	選択	

サブタイトル 筆をもって禅を行じる。

【DP(ディプロマポリシー)】

①広い社会的関心と教養を有し、宗教・仏教・禅・歴史・文化について説明でき、特に禅について深い専門的知識を習得している。②宗教・仏教・禅・歴史・文化についての豊かな素養を踏まえつつ、対象を正確に理解し、表現することで、他者との相互理解に努め、組織の中で創造的に活動していくことができる。

【到達目標】

- ・文房四宝(筆・墨・硯・紙)の使い方が習得できる。
- ・呼吸・姿勢・執筆法を身に付けることができる。
- ・手習い(技術)と目習い(鑑賞眼)を養うことができる。

【授業概要】

書は東洋における最も美しい芸術の一つです。それは東アジアの漢字文化とともに発達し、日本においては平安時代の仮名の線の美しさに象徴されます。

漢字の書体の変遷を古典と呼ばれる名跡を臨書することにより理解し、技術の向上を目指します。また、多くの墨跡にふれ鑑賞眼を養っていきます。

	授業計画・内容	学習成果(キーワード)
①	書について	文房四宝
②	〃	呼吸・姿勢・執筆
③	篆書の美	形と質・点と線
④	〃	甲骨文・金文・石鼓文
⑤	楷書の美	永字八法・唐の四大家
⑥	〃	書体と書風
⑦	隸書の美	乙瑛碑・トウ石如
⑧	〃	木簡・竹簡
⑨	行書の美	王羲之・書聖
⑩	〃	集字聖教序
⑪	草書の美	智永
⑫	〃	千字文
⑬	篆刻・刻字	金印
⑭	〃	印譜
⑮	筆禅道	書と禅
⑯	試験	

【授業外学修 予習・復習など】

書くという行為を意識して生活してください。身のまわりの美しいものに積極的にふれてください。授業の疑問は遠慮なくしてください。

【単位の認定評価方法及び受講上の留意点】

評価は毎回の課題の習作作品とレポートおよび試験等により総合的にみます。授業時数の5分の1以上欠席すると、試験の受験資格がなくなります。

【テキスト及び参考文献】

テキスト：必要資料は担当者の方で準備します。紙代・教材費として2000円徴収します。

その他道具は各自準備してください。

参考文献：「書は人なり 墨跡の観方と学び方」寺山且中著 淡交社 1680円

科目名		筆禅道b		担当教員名		加藤舞心	
開講基準 年次	授業期間 春・秋学期	開講曜日 時限目	単位数	授業区分 講義・演習・実習	授業コマ数	必修・選択	
1	秋	土(隔週) 1・2	1	実習	15	選択	

サブタイトル 筆をもって禅を行じる。

【DP(ディプロマポリシー)】

①広い社会的関心と教養を有し、宗教・仏教・禅・歴史・文化について説明でき、特に禅について深い専門的知識を習得している。②宗教・仏教・禅・歴史・文化についての豊かな素養を踏まえつつ、対象を正確に理解し、表現することで、他者との相互理解に努め、組織の中で創造的に活動していくことができる。

【到達目標】

- ・文房四宝(筆・墨・硯・紙)の使い方が習得できる。
- ・呼吸・姿勢・執筆法を身に付けることができる。
- ・手習い(技術)と目習い(鑑賞眼)を養うことができる。

【授業概要】

書の美しさは用美一体の美しさであり、日常生活を離れません。しかし、現代は文字を書く機会が少なくなってきました。文字を書く行為がなぜ書道という芸術まで高められたか、書論を読み、臨書や創作活動の実践をとおして学んでいきます。

また、自分の作品や墨跡を鑑賞して、豊かな感受性を養っていきます。

	授業計画・内容	学習成果(キーワード)
①	書について	書論
②	〃	漢字・仮名
③	漢字仮名交じり書	高村光太郎
④	〃	会津八一
⑤	行書の美	空海
⑥	〃	最澄
⑦	草書の美	宗峰妙超
⑧	〃	一休宗純
⑨	作品制作	撰文
⑩	〃	検字
⑪	〃	草稿
⑫	〃	落款
⑬	仮名の美	単体・変体仮名
⑭	〃	連綿・散らし書き
⑮	筆禅道	書と禅
⑯	試験	

【授業外学修 予習・復習など】

書くという行為を意識して生活してください。身のまわりの美しいものに積極的にふれてください。授業の疑問は遠慮なくしてください。

【単位の認定評価方法及び受講上の留意点】

評価は毎回の課題の習作作品とレポートおよび試験等により総合的にみます。授業時数の5分の1以上欠席すると、試験の受験資格がなくなります。

【テキスト及び参考文献】

テキスト：必要資料は担当者の方で準備します。紙代・材料費として2000円徴収します。

その他道具は各自準備してください。

参考文献：「書は人なり 墨跡の観方と学び方」寺山且中著 淡交社 1680円

科目名		陶芸 a		担当教員名		松原 一 哲	
開講基準 年次	授業期間 春・秋学期	開講曜日 時限目	単位数	授業区分 講義・演習・実習	授業コマ数	必修・選択	
1	春	金(隔週) 3・4	1	実習	15	選択	

サブタイトル	うつわの心
--------	-------

【D P (ディプロマポリシー)】

①広い社会的関心と教養を有し、宗教・仏教・禅・歴史・文化について説明でき、特に禅について深い専門的知識を習得している。②宗教・仏教・禅・歴史・文化についての豊かな素養を踏まえつつ、対象を正確に理解し、表現することで、他者との相互理解に努め、組織の中で創造的に活動していくことができる。

【到達目標】

- ・ひたすら陶芸のもつ芸術的なおもしろさに触れる事により、探究することができる。
- ・一作一作独自の輝きをもつ、うつわ制作をすることで技を習得ができる。
- ・プロセスを想像しながら鑑賞でき、焼き物への親しみ、共感がいっそう増すことができる。

【授業概要】

うつわにふれ、口をつけ、見つめる。器は人間のあらゆる感覚の近くで生々と響く言葉を持っています。そして折々に器に語りかける。その言葉をいかに受け止め得るか、そこから個人各様の器に対するこだわりが生まれてくるでしょう。ここでは、器への深いまなざしをお持ちの生徒諸君にお話しを伺い作陶に励もうと思います。

	授業計画・内容	学習成果 (キーワード)
①	制作工程の説明	陶器 磁器 炆器
②	轆轤をひく 高台を削る	湯呑 芯出し
③	”	”
④	”	”
⑤	”	煎茶器
⑥	”	”
⑦	”	酒器
⑧	”	”
⑨	”	茶盃
⑩	”	”
⑪	” 素焼	700度焼成
⑫	”	”
⑬	” 本焼 絵付け 施釉	1250度焼成 志野 織部
⑭	”	”
⑮	” 作品提出	鑑賞
⑯	試験	

【授業外学修 予習・復習など】

うつわの形をイメージして、授業に取り組む。
授業外も作品を制作して下さい。

【単位の認定評価方法及び受講上の留意点】

授業への取り組み (50%)、定期試験 (25%)、作品提出 (25%) により行う。
なお、授業数 5 分の 1 以上欠席すると、試験の受験資格がなくなります。

【テキスト及び参考文献】

テキスト：必要な資料等はコピー配布します。

科目名		陶芸b		担当教員名		松原一哲	
開講基準 年次	授業期間 春・秋学期	開講曜日 時限目	単位数	授業区分 講義・演習・実習	授業コマ数	必修・選択	
1	秋	金(隔週) 3・4	1	実習	15	選択	

サブタイトル	うつわの心
--------	-------

【DP(ディプロマポリシー)】

①広い社会的関心と教養を有し、宗教・仏教・禅・歴史・文化について説明でき、特に禅について深い専門的知識を習得している。②宗教・仏教・禅・歴史・文化についての豊かな素養を踏まえつつ、対象を正確に理解し、表現することで、他者との相互理解に努め、組織の中で創造的に活動していくことができる。

【到達目標】

- ・ひたすら陶芸のもつ芸術的なおもしろさに触れる事により、探究することができる。
- ・一作一作独自の輝きをもつ、うつわ制作をすることで技を習得できる。到達目標は、必ず1. 2.
- ・プロセスを想像しながら鑑賞することで、焼き物への親しみ、共感がいっそう増すことができる。

【授業概要】

うつわにふれ、口をつけ、見つめる。器は人間のあらゆる感覚の近くで生々と響く言葉を持っています。そして折々に器に語りかける。その言葉をいかに受け止め得るか、そこから個人各様の器に対するこだわりが生まれてくるのでしょうか。ここでは、器への深いまなざしをお持ちの生徒諸君にお話しを伺い作陶に励もうと思います。

	授業計画・内容	学習成果(キーワード)
①	薪窯に入れる作品を制作	花器
②	〃	大鉢
③	薪窯焼成	窯焚き
④	〃	〃
⑤	大学祭に出品する作品の制作	志野 織部 黄瀬戸
⑥	〃 本焼き 絵付けに必要な資料はコピーします。	1250度焼成
⑦	作品を制作	茶盃
⑧	〃	
⑨	〃	徳利
⑩	〃	
⑪	素焼き	700度焼成
⑫	〃	
⑬	本焼き 絵付け	1250度焼成
⑭		
⑮	作品提出	鑑賞
⑯	試験	

【授業外学修 予習・復習など】

うつわの形をイメージして授業に取り組む。
授業外も作品を制作して下さい。

【単位の認定評価方法及び受講上の留意点】

授業への取り組み(50%)、定期試験(25%)、作品提出(25%)により行う。
なお、授業数5分の1以上欠席すると、試験の受験資格がなくなります。

【テキスト及び参考文献】

テキスト：必要なテキストはコピー配布します。

科目名	精進料理法 a			担当教員名	後藤安弘	
開講基準 年次	授業期間 春・秋学期	開講曜日 時限目	単位数	授業区分 講義・演習・実習	授業コマ数	必修・選択
1	春	土曜日・4-5	1	実習	15	選択

サブタイトル 食材を活かし、己を活かす

【DP(ディプロマポリシー)】

①広い社会的関心と教養を有し、宗教・仏教・禅・歴史・文化について説明でき、特に禅について深い専門的知識を習得している。②宗教・仏教・禅・歴史・文化についての豊かな素養を踏まえつつ、対象を正確に理解し、表現することで、他者との相互理解に努め、組織の中で創造的に活動していくことができる。

【到達目標】

- ・グループの中で協動的に精進料理を調理することが出来る。
- ・精進料理の精神を理解して食材を活かし、無駄を少なく料理することが出来る。
- ・準備や後片付けに意義があることを学び、感謝して実践することが出来る。

【授業概要】

古来より禅宗の道場では、食事時に経典を誦み、食事を薬としていただき、またその食事の材料が口に入るまでの幾多の苦勞を思い感謝して頂いてきた。その中で禅宗道場の精進料理は、大切な修行として、野菜中心の手間を惜しまない料理として確立され現代に息づいている。この授業では季節の材料を使い精進料理実習を行い、材料を生かして朱膳朱椀に盛り合わせて頂き、禅の心を知っていただきたい。また合わせて精進料理の精神も学んで頂きたい。(材料調達の関係で献立変更有り)

	授業計画・内容	学習成果(キーワード)
①	第1回菜花和え、大根きんぴら、伊深志ぐれ飯	まな板と包丁の使い方
②	第1回-2 後片付	和えもの基本を学ぶ
③	第2回白和え、茶飯	霊具膳と朱膳朱椀の名称を知る
④	第2回-2 後片付	豆腐料理の基本
⑤	第3回蒸し擬製豆腐、生姜飯	包丁の使い方を知る
⑥	第3回-2 後片付	
⑦	第4回えのき茸みぞれ和え、菜飯	片栗粉の性質を学ぶ
⑧	第4回-2 後片付	
⑨	第5回飛龍頭、人参飯	豆腐の粘りを出す
⑩	第5回-2 後片付	
⑪	第6回茗荷寿司、青紫蘇飯	材料を発色させる
⑫	第6回-2 後片付	
⑬	第7回速成流し胡麻豆腐、大根飯	葛の性質を学ぶ
⑭	第7回-2 後片付	
⑮	第8回揚げ出し茄子、豆腐飯	素材を味を閉じ込める
⑯	第8回-2 後片付	

【授業外学修 予習・復習など】

キーワードを辞書等で調べてくること。授業中に不明点は、メモ等にして担当教員に提出してください。

【単位の認定評価方法及び受講上の留意点】

学期末レポート試験(持ち込み不可)50点、授業実践点30点、授業に臨む姿勢20点によって評価する。

【テキスト及び参考文献】

テキスト：プリントを配布します。

参考文献：『精進料理口伝』初代学長梶浦逸外老師 大法輪閣 『精進料理の極意』初代学長梶浦逸外老師 大法輪閣

科目名		精進料理法b		担当教員名		後藤安弘	
開講基準 年次	授業期間 春・秋学期	開講曜日 時限目	単位数	授業区分 講義・演習・実習	授業コマ数	必修・選択	
1	秋	土曜日・4-5	1	実習	15	選択	

サブタイトル 食材を活かし、己を活かす

【DP(ディプロマポリシー)】

①広い社会的関心と教養を有し、宗教・仏教・禅・歴史・文化について説明でき、特に禅について深い専門的知識を習得している。②宗教・仏教・禅・歴史・文化についての豊かな素養を踏まえつつ、対象を正確に理解し、表現することで、他者との相互理解に努め、組織の中で創造的に活動していくことができる。

【到達目標】

- ・グループの中で協動的に精進料理を調理することが出来る。
- ・精進料理の精神を理解して食材を活かし、無駄を少なく料理することが出来る。
- ・準備や後片付けに意義があることを学び、感謝して実践することが出来る。

【授業概要】

古来より禅宗の道場では、食事時に経典を誦み、食事を薬としていただき、またその食事の材料が口に入るまでの幾多の苦勞を思い感謝して頂いてきた。その中で禅宗道場の精進料理は、大切な修行として、野菜中心の手間を惜しまない料理として確立され現代に息づいている。この授業では季節の材料を使い精進料理実習を行い、材料を生かして朱膳朱椀に盛り合わせて頂き、禅の心を知っていただきたい。また合わせて精進料理の精神も学んで頂きたい。(材料調達の関係で献立変更有り)

	授業計画・内容	学習成果(キーワード)
①	第1回枝豆磯辺焼き、ひじき飯	六味を知る
②	第1回-2 後片付	
③	第2回胡麻葛和え、抹茶飯	白和え異種を工夫する。
④	第2回-2 後片付	
⑤	第3回精進蒲焼き、牛蒡飯	豆腐の性質を知る
⑥	第3回-2 後片付	
⑦	第4回梅和え、青豆飯	和えものを楽しむ
⑧	第4回-2 後片付	
⑨	第5回椎茸傘焼き蓮根詰、小豆飯	蓮根を味わう
⑩	第5回-2 後片付	
⑪	第6回精進おせち、白味噌雑煮	目で楽しむ
⑫	第6回-2 後片付	
⑬	第7回ぴりこん、椎茸飯	こんにゃくに味をつける
⑭	第7回-2 後片付	
⑮	第8回うどん豆腐、五目寿司	豆腐の性質を断つ
⑯	第8回-2 後片付	

【授業外学修 予習・復習など】

キーワードを辞書等で調べてくること。授業中に不明点は、メモ等にして担当教員に提出してください。

【単位の認定評価方法及び受講上の留意点】

学期末レポート試験(持ち込み不可)50点、授業実践点30点、授業に臨む姿勢20点によって評価する。

【テキスト及び参考文献】

テキスト：プリントを配布します。

参考文献：『精進料理口伝』初代学長梶浦逸外老師 大法輪閣 『精進料理の極意』初代学長梶浦逸外老師 大法輪閣

正眼短期大 学校歌

作詞 谷 耕 月

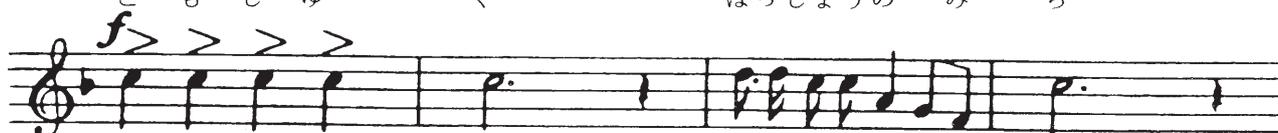
作曲 小森 真太郎



う し ま き の き よ き な が れ に
わ き い ず る の り の い ず み に
も と ふ か く の な が れ は と は に
こ ん だ く の よ の ま よ い じ に



か ぜ は よ ぶ かんざんのーみ ね
あ た ら し きる はるのあけーぼ のり
あ お ぎ し るく むそうのひーか り
と も し ゆ く はっしょうのーみ ち



く さ ふ か き こ さ つ の ほ と ー り
う ち な から す の さ ね は ひ び き ー て
し ょ う ほ う ら の ま な こ ひ ら き ー て
あ あ わ れ ら ぼ こ う が ほ こ ー り



よ に ー た か ー き り
め ぎ ー た め か ー り
た ぞ ー ひ た ら ー り
い ぎ ー た ち ー り

- 一、牛牧の清き流れに
風は呼ぶ関山の嶺
草深き古刹のほとり
世に高き古徳在ませり
- 二、湧き出づる法の泉に
新しき春のあけぼの
打ち鳴らす鐘は響きて
目ざめたり若き魂
- 三、源深く流れは永遠に
仰ぎ見る無相の光
正法の眼開きて
誰ぞ開く報恩の蔵
- 四、混濁の世の迷路に
灯し行く八正の道
あゝ我等母校が誇り
いざ起ちて仏土浄めん